



千葉大学医学部同窓会報 第166号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのはな同窓会長)

編集発行者  
千葉大学医学部  
みのはな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
みのはな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/



このたびは医学部同窓会のご推薦を受け、学内の多くの方々のご支援をいただき、齋藤康学長の後任として千葉大学の学長に就任いたしました。私は、多くの同級生と同様に臨床医を志して昭和42年本学に入學しました。学部時代の講義



### 千葉大学学長就任挨拶

徳久 剛史 (昭48)

から免疫学に興味を持ち、2年間の臨床研修の後に大学院に進学し、多田富雄先生(昭34)の下で免疫学を専攻しました。免疫学教室では、谷口克先生(昭42)や奥村康先生(昭44)から直接ご指導を受けました。その後30年以上にわたり「免疫記憶の分化と維持」に関して、分子レベルでの研究を行ってきました。その間、医学部長などの役職を引き受け研究一筋というわけにはいきませんでした。

多くの教室員や大学院生とともに楽しく研究活動を続けてこられました。この度、定年を迎えましたが、引き続き学長として千葉大学に留まることになりました。千葉大学は、昭和24年に5学部からなる新制大学としてスタートし、現在では9学部、11研究科(学府・研究院含む)を有する大規模総合大学に発展してきました。その間、学部や研究科の専門性や職種等の壁を越えて自由な発想で議論

し、改革をすすめてきました。このオープンかつ垣根の低い部局間交流が、千葉大学における特色ある融合型教育・研究を推進する原動力になっています。私は、この特色を最大限に展開させて、「つねにより高きものをめざし」、広い視野をもって何事にも誠実に取り組む国際的な人材の育成を目指してまいります。研究面でも、学問の多様性を尊重しつつ、世界レベルの基礎研究や応

総会開催のお知らせ	1	雑文雑談
就任挨拶	1~2	追悼文
卒業祝辞	4~6	みのはな同窓会支援
叙歎感想	2~3	卒後研修先
各地のみのはな会	8~9	課外活動団体だより
クラス会	10~11	オンライン会報
研修プログラム	12~13	記念式典
研修医だより	14	会館設立
著書紹介	14	議事要旨
地区のみのはな会報	14~15	入学者名
会員から	16	人事異動
	17~19	編集後記
		7
		38~39
		31~37
		28~30
		26~27
		23~24
		22
		21
		20
		19

### 紙面紹介

## 新みのはな同窓会館完成

2013年1月に工事がスタートした新みのはな同窓会館が完成しました。

1階が合宿施設、2階が多目的ホール(写真)、会議室、同窓会事務室となっています。

(平面図を31面に掲載)



## みのはな同窓会総会

### 開催のお知らせ

平成26年度のみのはな同窓会総会を左記により開催いたします。

- 日時 平成26年6月14日(土) 午後3時より
- 場所 千葉大学附属図書館 亥鼻分館3F ライブラリーホール
- 議事等
  - 1) 名誉会員の推薦について
  - 2) 年次活動について (報告事項)
    - ① 庶務部報告
    - ② 事業部報告
    - ③ 平成25年度決算について
    - ④ 決算報告
  - ⑤ 監査報告
  - ⑥ 平成26年度事業計画について
  - ⑦ 平成26年度予算案について
  - ⑧ 役員選出について
  - ⑨ みのはな同窓会館について
  - ⑩ その他
- 演 題
  - ① みのはな同窓会賞表彰式
  - ② みのはな同窓会賞受賞者講演

### 特別講演

千葉大学長 徳久 剛史 先生 「千葉大学の将来構想」

### 懇親会

時間 午後6時~  
場所 みのはな同窓会館 多目的ホール  
会費 一万円  
学生会員は無料  
(当日受付にて申し受けます)

個人情報保護のために同封のシールを貼り、返信用葉書にて出欠の返事をお送りください。なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長にご一任頂いたものとさせていただきます。(6月4日必着)

(徳久先生のつづき)  
用研究を強力に推進していきます。また、競争的外部資金の獲得や社会との連携ばかりでなく、海外を含めた他大学との連携を強化していきます。そのために必要となる運営組織の構築と経営収支の改善などに、全教職員とともに一丸となって取り組んでいきます。  
特に国立大学が平成16年に法人化されてからは、国

## 附属病院長就任挨拶

眼科学 山本 修一 (昭58)



このたび平成26年4月より附属病院長を務めさせていただきましたこととなりました。私は平成15年4月に、前地の東邦大学佐倉病院から千葉大学に眼科学教授として戻り、平成19年からは河野陽一先生、宮崎勝先生の二代の病院長の下で3期7年間、副院長を務めて参りました。この間に、将来計画・再開発委員会、外来病床委員会、広報委員会、治療審査委員会、看護師確

立大学間での機能分化が強く求められています。千葉大学は、千葉医科大学の時代と同様に、研究活動を通して人材育成を行う「研究大学」に位置づけられると思います。実際に、研究大学という位置づけの大学に配分される大型の競争的教育研究経費である「リーディング大学院プログラム」を、

ます。この研究大学としての位置づけを確固たるものにするためにも、医学研究と附属病院における教育・研究・診療活動を強く支援していきます。おのほな同窓会の諸兄におかれましては、これまでと変わらぬ御支援と御鞭撻をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

院では、これは奇跡的とも言えるかもしれません。この素晴らしい伝統をしっかりと守り育て、誰からも信頼される千葉大学病院を次世代に引き継いで行きたいと考えております。

患者が安心する医療環境を作るためには、職員にとって働き甲斐のある職場環境が不可欠です。幸いにもこれまでの副院長長としての経験を通して、千葉大学病院で働く医師もコメディカルスタッフも皆、とても優秀でありとても真面目であることを実感してきま

た。そして誰もが理想とする病院像をそれぞれの胸に抱いています。そのような各人の「夢をかたち」にし、千葉大学医学部附属病院を世界最高の病院にすべく全力を尽くして参りたく存じます。同窓会の先生方のご指導、ご支援を心からお願ひ申し上げます。

所は「医道の昂揚と会員の親睦」でありますが、年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではおのほな同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思ひます。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していただきます。所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。

保対策WGなど、院内の多くの重要業務を経験させていただきましたこととなりました。特に再開発関係の仕事は10年近く携わってきましたので、来る7月に新外来棟を病院長としてご披露できるのはとても感慨深く、またこの上ない喜びでもあります。新外来棟完成後は新しい建物が新たな活気で溢れるように、教職員の皆さんと頑張ってください。

また、外来棟に続いて中央診療棟の新築が計画されていますが、こちらは規模も遙かに大きく、今後20年間の千葉大学病院の命運を左右するといっても過言ではありません。高度救命救

急センター、放射線部、手術部、材料部など最新鋭の重整備を必要とする部署が中心となり、おのほなとやり直しができませんから、将来の償還計画を横目で睨みつつも最高の中央診療棟の建設を進めます。つい、十八番の再開発から入ってしまいました。

病院にとって最も重要なことは、安全かつ安心な医療を提供することに他なりません。幸いにも、歴代の病院長のリーダーシップと教職員の献身的働きのお蔭をもつて、千葉大学病院は長期にわたり重大な医療事故を経験せずに済んできました。うちほどの規模の病

院では、これは奇跡的とも言えるかもしれません。この素晴らしい伝統をしっかりと守り育て、誰からも信頼される千葉大学病院を次世代に引き継いで行きたいと考えております。

所は「医道の昂揚と会員の親睦」でありますが、年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではおのほな同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思ひます。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していただきます。所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。

るのほな同窓会副会長 濟陽 高穂 (昭45)

皆さん本日は、卒業ならびに学士号取得おめでとうございます。大学の教育課程をすべて修了し、また長かった小学校入学以来の教育期間の終了を迎え安堵の念を感じていることと思ひます。しかしそれ以上に諸君のご家族にとつては、待ちかねた日であり、また医学部教授陣をはじめ指導教官にも嬉しい一時だろうと思ひます。諸君一人一人の満足にも増してご家族、また教育指導に当たった教授陣や諸先輩の喜びも一入で、永年ご子弟に注がれた親族としての

た。そして誰もが理想とする病院像をそれぞれの胸に抱いています。そのような各人の「夢をかたち」にし、千葉大学医学部附属病院を世界最高の病院にすべく全力を尽くして参りたく存じます。同窓会の先生方のご指導、ご支援を心からお願ひ申し上げます。

所は「医道の昂揚と会員の親睦」でありますが、年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではおのほな同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思ひます。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していただきます。所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。

所は「医道の昂揚と会員の親睦」でありますが、年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではおのほな同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思ひます。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していただきます。所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。

所は「医道の昂揚と会員の親睦」でありますが、年3回の会報を発行して医学部ならびに同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告しています。最近ではおのほな同窓会のホームページも充実してきており、インターネットで最新の情報も発信しております。診療の合間に、各自のパソコンで閲覧していただくようお願いしたいと思ひます。その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東医体への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していただきます。所属する支部と連絡を密にして、その活動に参加・協力していただくようお願いいたします。

わが千葉大学医学部は、歴史的に優秀な研究者あるいは熱意溢れる臨床医を数多く輩出してきました。その中では不治の病に挑んで、独創的な手術方法を開発したり、難病の診断や治療に取り組み、国際的評価を受けた人も多数いるわけです。皆さんもこれから努力を重ねこれら諸先輩に続いて、医療界に貢献する医師として大きく成長するよう心より願っております。

井上靖が、二千五百年前中国で『論語』を著わした孔子についての小説を書き、講演でも解説しておりますが、論語の神髄は、「人生への賛歌」のようです。春秋戦国時代の大変な乱世にあつて人の道を説いたものですが、その結論は、この世に生まれてきて良かった、生まれないよりは生まれて実りある人生を送ることができたと実感できる世作りに務めたことです。

皆さんがこの千葉大学ですばらしい医学教育を受け、そのことを基盤に今後ともさらに精進され、『医者になつてよかつた』、研究を続けてよかつた』との感慨をもたらす人生を送られるようお願いしております。

本日は、まことにおめでとございました。

## 謝 恩 会

\*午後6時から卒業生主催による謝恩会が三井ガーデンホテル千葉で催され、済陽高穂副会長より全卒業生

と全教授の写真が掲載された額入りの銘板が学生代表に贈呈されました。卒業生有志の管弦楽演奏などもあ

り楽しいひと時となりました。



# 就任挨拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 小児病態学 教授

#### 下条 直樹 (昭54)



平成25年12月1日付けで千葉大学大学院医学研究院小児病態学の教授を拜命致しました。これもひとえに、のほな同窓会の諸先生方をはじめ皆様のご厚情の賜物と感謝申し上げます。

私は、昭和54年に千葉大学医学部を卒業後、小児内分泌学を専門とする中島博徳教授が主宰されておりました小児科学講座に入局しました。中島教授は、トータルに患者を診療する comprehensive pediatrics を基礎に置きながら高い専門性も有する医師の育成を行う教室を目指されておりました。私は、生体の恒常性維持に興味がありアレルギー免疫学を専門領域に選びました。研究では留学から帰国した河野陽一前小児科教授の指導の下、代表的自己免疫性

環境因子を分子レベルで解明し治療や予防を行うことを目標に現在まで臨床研究を続けております。

甲状腺疾患である橋本病における甲状腺自己抗原のT細胞認識機構に関する研究で学位を取得しました。学位取得後に米国国立衛生研究所(国立神経疾患卒中研究所(国立神経免疫部門))に留学し、外来抗原であるウイルステ异的傷害性T細胞による抗原認識機構を分子レベルで研究しました。帰国後、橋本病と並んで重要な自己免疫性甲状腺疾患であるパセドー病の実験動物モデルを河野前教授、新美仁男元教授とともに作成し、甲状腺刺激抗体産生につながる自己反応性B細胞とT細胞のTSHレセプター認識機構の一端を解明することができました。臨床研究では患者数が著増しつつあったアトピー性皮膚炎・食物アレルギー患者からアレルギー特異的T細胞株を樹立してその機能を解析しました。また、アレルギー疾患の厚生労働省班疫学研究に参加する過程でコホート研究を開始し、免疫反応を調節す

る機構としての遺伝因子、環境因子を分子レベルで解明し治療や予防を行うことを目標に現在まで臨床研究を続けております。

特徴を生かしながら、この課題に対処していけると思っています。また、大学内外の複数の臨床科や基礎教室との連携を進め、小児を対象とするトランスレーショナルリサーチを進めていきたいと考えています。

最近の疾病構造は以前と大きく変化し、アレルギー疾患、炎症性腸疾患、癌、心疾患、糖尿病、高血圧症、動脈硬化、脳卒中などの非感染性疾患(noncommunicable diseases, NCDs)の治療・予防が現代医学の大きな課題となっております。NCDsの本体は慢性炎症であり、その基礎に免疫系・生体防御機構の制御異常が深く関与していますが、最近の研究から成人も含めたNCDsの発症に関与する免疫異常が胎児期・幼児期に始まる可能性が明らかになりつつあります。小児は免疫系をはじめ多くの生体システムにおいて可塑性が大きいことからNCDsに対する予防的介入の良い対象となります。妊娠中、乳幼児期の環境因子によるエピジェネティカルな制御機構の解明も含めて、アレルギー疾患をはじめとする小児の慢性炎症の予防あるいは早期の介入研究を進めていきたいと考えます。幸い当教室には複数の専門研究班があり相互に協力しあうことにより、各研究班の専門性・

このような目標に向かうには何と言っても人材の育成が重要です。基礎研究、臨床研究を行える環境にある大学において、学部学生、初期研修医、後期研修医教育を通じてリサーチマインドを有する医師を養成して

## 千葉大学

### 予防医学センター 教授

#### 戸 高 恵美子 (薬学院・平17)

行きたいと考えます。これは県内外の基幹病院において様々な小児患者に対応できる医師の養成にも繋がります。さらに、より開かれた小児科として、大学病院以外の病院で研修を行っている小児科医師にも研究を経験する機会を提供して行きたいと思っております。のほな同窓会の皆様には今後とも小児医療ならびに小児科学教室の発展のためにも、ご指導、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

平成25年12月1日付けで、千葉大学予防医学センター教授に就任いたしました。私のような未熟な者が歴史のある千葉大学の教授に就任させていただけたのは、ひとえに大学院医学研究院の森千里教授をはじめ予防医学センターおよび医学部の先生方のご支援とご指導のおかげです。深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導をお願いする次第です。

開設されましたSRL環境健康医学寄付講座の助手に就任する前は、5年半、環境問題の専門新聞記者としておりました。カナダの大学で環境問題を勉強し、環境中に存在する汚染物質が、人、とくに小児や胎児の健康に悪影響を与えるのではないかと、という疑問を持っておりまして、新聞記者時代は主にダイオキシンやPCB(ポリ塩化ビフェニール)などの環境ホルモンや複合化学物質の人の健康問題について取材をし

ておりました。森教授にお誘いいただき寄付講座助手に就任してからも、一貫して環境汚染物質の健康影響について研究・教育してまいりました。身の回りで使用される多種多様な化学物質が人の心身の健康にどのような影響を与えているのかは、実験が難しい分野でもあり多くの研究者が取り組んでいます。影響評価の方法や対応が定まっていません。

一番身近な室内空気中の化学物質が影響を与えるシツクハウス症候群もその一つです。千葉大学の葉キャンパスで実際に住宅を建築し、室内空気中の揮発性有機化合物を測定し、人が五感で感じる体感評価を行ってみて、ようやく実態を少し明らかにすることができました。実際に影響を受けるまでは想像もできないことですが、実は人それぞれ弱い化学物質があるようです。化学物質への感受性は人によっても、また発達段階でも大きく異なりますので、小児、さらに胎児期の暴露がどのようにその人の出生後の生活に影響しているのか、さらなる研究が必要と

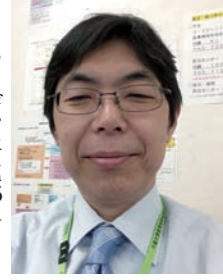
ありますWHO本部の環境保健部(Department of Public Health, Environmental and Social Determinants of Health)に派遣されておりまして。WHOは、大学とは全く異なり世界の保健行政機関ですので、専門家の委員会を開いて課題を検討し、WHOとしてのガイドラインを設定したり、各国の行政機関に向けて勧告を出す、などが主な業務です。日本では、中国からの大気汚染物質、PM2.5の飛来による健康影響が問題となっております。水や空気には国境がないので、汚染物質は広く人々に健康影響を及ぼします。そのような国境を越えた汚染物質の影響も、WHOが携わる業務です。

教授としての仕事をほとんど何もする間もなくスイスに来てしまいました。1年3年という任期を終えましたらWHOでの経験を大学での研究・教育に生かしてまいります。環境保健は、まだまだ歴史の浅い分野であり、これから各方面にその重要性を伝えていく必要があります。そのためにも、のほな同窓会の先生方のご理解とご協力をいただきたく、心よりお願い申し上げます。

### 千葉大学

#### 予防医学センター 臨床疫学 教授

藤田 伸 輔 (神戸大・昭59)



このたび、平成26年1月1日付けをもちまして、千葉大学予防医学センター臨床疫学教授を拝命しました。おのほな同窓会報の読者の皆様にご挨拶を申し上げます。私は昭和59年に神戸大学を卒業し兵庫医科大学第二外科で大腸外科医としてトレーニングを受けました。この教室の初代伊藤教授は神戸大学卒ですが千葉大学第二外科中山先生の教えを受けられ、私どもの手技もこの流れにあるのだと教えられました。手術を行った患者さんのデータベース作成を担当し高い評価をいただきました。その後兵庫医科大学付属病院の病院情報システム導入に際しては千葉大学医療情報部里村教授に大変お世話になりました。平成15年に企画情報部高林教授と厚生労働科学研究所「症状・所見の標準化と診療分析手法の開発研究」をこ

一緒にさせていただきました。平成25年5月1日より千葉大学医学部附属病院地域医療連携部にお世話になり、皆様に大変良くしていただきました。疫学は疾病の発生場所と頻度を調べてその原因と対策を立てる学問です。その成功例として1854年ロンドンの井戸水が感染源であることをジョン・スノウが発見したことはとても有名です。その後疾病の発生頻度は1900年パリでの国際疾病分類(ICD-1)となり、現在我々が使用しているICD-10および標準病名集へとつながっています。コンピュータの発達に伴い様々な解析が可能となり、過去のデータを患者さんの予後予測、治療方針決定にも使用できるようになりました。臨床疫学とは診療データを診療に役立てる学問です。千葉大学は里村先生が作られた日本最大級の電子診療データを誇ります。これをデータウェアハウスとして院内で公開していますが、そのデータの利用には専門知識が必要で

した。日々の診療において千葉大のデータを活用していただくため、予防医学センターでは統計ソフト(SAS)を搭載したサーバ上に診療データを集積しました。マウス操作を中心とした簡単な操作で入院目的の毎

### 千葉大学大学院医学研究院

#### 総合医科学講座 特任教授 東千葉メディカルセンター循環器内科部長

佐野 剛 一 (金沢大・平3)



平成26年1月1日付けで千葉大学大学院医学研究院総合医科学講座特任教授、東千葉メディカルセンター循環器内科部長を拝命いたしました。この場をお借りして、これまでにお世話になりましたおのほな同窓会にの諸先生方に心より感謝申し上げます。私は、平成3年に金沢大学医学部を卒業し当時の千葉大学医学部附属病院第三内科(故稲垣義明教授)に入局、千葉労災病院、横浜労災病院、君津中央病院で勤務したのちに、埼玉医科

の平均入院期間や薬剤への反応などを解析できるようにしたいと考えております。学内、学外を問わず皆様の臨床研究のお役に立ちたいと考えておりますので、お気軽にご相談下さい。

大学に異動、その後は岩槻南病院、東京医大茨城医療センターで循環器内科医師として勤務しておりました。私の専門は循環器内科学の中でも特に心臓カテーテル治療であります。このたび、山武長生夷隅保健医療圏に千葉大学の関連で東千葉メディカルセンターという新しい病院ができるのでこの循環器内科をやってみなしかと、千葉大学循環器内科小林欣夫教授よりお話しをいただきました。いろいろとお話しをお聞きしますと、この病院の特色を表すキーワードとして、救急診療、地域医療、千葉大学との連携の3つがあげられるのではないかと思います。救急医療・急性期医療に改

善が必要であるとも聞きました。もちろん、このような救急医療・急性期診療をおこなう病院の新規立ち上げは大変な事業であり、且つ総合医科学講座という千葉大学医学部の新講座を利用した病院新設もまったく新しい試みと聞いております。一方、計画を見渡してみますと、平澤博之名誉教授が理事長として全体を指揮され、救急診療に対する配慮が随所に感じられます。例えば、東千葉メディカルセンターの建物の設計において、救急外来、ED(EDIC)、我々が緊急心臓カテーテル検査・治療を施行するときに使用するアンジオ室が1階の同じフロアに配置されており、これは循環器の救急診療を行う上で大変に有利であると考えています。

1月1日に赴任した際には、東金市役所内開院準備室での勤務であり驚くことも多かったのですが、市役所の方々と一緒にさせていただいたことも、貴重な経験でした。2月1日からは完成した病院建物に引越しましたが、病院の事務系の方々ともこのように緊密に仕事をさせていただくことも初めてであり、大変勉強になります。

### 東邦大学医学部

#### 生化学講座 教授

中野 裕 康 (昭59)



院、重責に身の引き締まる思いであります。今回、久しぶりに千葉県の病院勤務に戻り、先輩方の温かい励ましのお言葉をいただくことが多くあります。後輩の若手医師の活気も強く感じます。これは、大変に嬉しく、心強いことです。

この4月より東邦大学医学部生化学講座の教授として赴任させていただきましたことになりました。中野裕康と申します。教授選考の折には千葉大学医学部おのほな同窓会の皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を述べさせていただきます。私は昭和59年に千葉大学を卒業し、卒業後は渡邊昌平先生の主催されていた呼吸器内科に入局し、大学院での2年間の研修の後に、都立府中病院呼吸器内科(鈴木光部長)にて呼吸器内

東千葉メディカルセンターをより良い病院にするため、微力ですが頑張りたいと思います。おのほな同窓会の皆様にも今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

科の専門医としてのトレーニングを受けました。この時に治療の甲斐なく亡くなつていく肺線維症の患者さんに接する機会が多かったこともあり、この病気のこともっと知りたいということ、当時の呼吸器内科教授の栗山喬之教授にお願いし、その当時日本のびまん性肺疾患の病理研究のメッカの一つであった、結核予防会結核研究所の病理研究員として2年間肺病理の勉強をさせていただきました。しかし、病理学的解析だけでは病気の本質を知るには不十分であると考え、分子生物学や免疫学を学びたいと考え、思い切つて大学院に進学しました。大学院時代の研究は高次機能制御研究センターの齊

藤隆教授(現理化学研究所 統合生命医学研究センター副センター長)の指導のもとでT細胞受容体を介するシグナル伝達の研究に従事しました。大学院卒業時には臨床にもどるか、外国に留学するか、あるいは国内のラボで職を探すか、かなり悩みましたが、運良く順天堂大学医学部免疫学教室(奥村康教授)の助教として採用していただきました。奥村教授の主催されていた免疫学講座の居心地が良かった事も、早くもこの3月末で19年間お世話になったことになりました。

この期間に私は主に転写因子Zfpの活性化のメカニズムや、Zfpによる細胞死抑制のメカニズムの研究を行って参りました。現在では、我々の体の中で様々な状況で生じる死細胞からどのような因子が放出され、生体の恒常性維持に関与するのか、あるいはその異常に伴いどのようなメカニズムで慢性炎症なども含めた様々な病態が誘導されるかについて遺伝子改変マウスモデルを用いて研究を行っております。

東邦大学医学部生化学講座に赴任後は、現在在籍されているスタッフの方々および私の移動に伴い一緒に

移動するポストドクや大学院生などと協力して、研究および教育の面でより一層教室を盛り上げていきたいと考えております。東邦大学にはおののはな同窓生の方々(伊豫田明教授、岡住慎一教授、島田英昭教授、鈴木康夫教授、龍野一郎教授、中川晃一教授、武城英明教授ら)が既に活躍されており

(独法)労働者健康福祉機構  
**鹿島労災病院**  
院長 山口 邦雄(昭53)



院長 山口 邦雄(昭53)

ます。その方々とも密接な連携をとりつつ、東邦大学の発展のために尽くしていきたいと思っております。最後にになりましたが、千葉大学医学部の発展のために微力ながら尽力させていただきたいと思っておりますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

私は昭和53年に千葉大学を卒業後、千葉大学医学部泌尿器科学教室に入局いたしました。千葉大学医学部附属病院で研修を受け、以降、国立千葉病院、国立国府台病院等で勤務し、昭和61年から平成3年まで帝京大学医学部附属市原病院で勤務をいたしました。

平成3年から平成24年までの間は横浜労災病院に勤務し、泌尿器科部長、副院長を経験後、現在に至った次第です。

鹿島労災病院は、昭和56年に労働者健康福祉機構(当時は労働福祉事業団)の36番目の労災病院として開設されました。以来、千葉大学よりの絶大な支援の下、

鹿島臨海工業地帯を背景に、職業性疾病や労働者の健康管理を行いつつ、一方で地域に密着した医療を展開してまいりました。

しかしながら、近年の医師偏在の影響を受け当院は極端な医師不足に陥りました。特に、鹿島労災病院がある茨城県南部地域は、交通の便が非常に悪いことも重なり、全国的に見ても医師数が更に少ない地域となっております。私が院長として就任した平成25年4月当初は、常勤医師が私を含めて10名となっております。一般病床300床を稼働させるにはとても医師数が足りず、稼働病床数を100床に下げざるを得ない状況で、地域医療の疲弊ぶりは惨憺たるものがありました。極端に申し上げれば、他の地域では救われる命が、救えない状況にあります。医師確保が至上命題であり、現状から地域医療を守るためには、どうすればよいのかを常に考えてまいりました。

まずは、人的・物的資源を有効かつ効率的に活用するために、相互補完的な病院間や診療所間との地域連携が必須であります。また、県や市当局など行政との連携、協力体制も重要であり、

地元市民の声とともに強力な支援をお願いしてまいりました。

このような取組を続けた結果、茨城県から寄附講座というかたちで支援を得ることにより、東京医科大学病院から整形外科常勤医3人を派遣いただくことがで

**第90回千葉医学会学術大会**

日時：平成26年7月23日(水) 16:10より  
会場：千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂

**特別講演 「敗血症の病態と治療 up-to-date」**

演者：平澤 博之 先生  
(千葉大学 名誉教授/(地独)東金九十九里地域医療センター 理事長・東千葉メディカルセンター センター長)

座長：里村 洋一 先生 (千葉大学 名誉教授)



平澤博之先生

**招待講演 「救急医療システムの現状と将来」**

演者：織田 成人 先生  
(千葉大学大学院医学研究院 副研究院長・救急集中治療医学 教授)

座長：吉原 俊雄 先生  
(東京女子医科大学 副学長・耳鼻咽喉科学 主任教授)



織田成人先生

きました。ほかにも様々な大学を訪問させていただき、医師確保に向けたお願いを継続してきております。

私としては、鹿島労災病院が再び活気にあふれた病院となるべく、そして、母校千葉大学の名に恥じるこ

とのないよう不断の努力を重ねる決意を新たにしているところがございます。おののはな同窓会の皆様方におかれましては、今後も引き続きの御支援、御指導をいただきますようお願い申し上げます。

**参加手続き及び費用は不要**

ご来場の際は、公共の交通機関をご利用下さい。多くのご来場をお待ち申し上げます。

問合せ：千葉医学会  
(〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内)  
TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757  
E-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org

受章の挨拶

瑞宝中綬章

瑞宝中綬章を受章して  
一生化学者の歩み

橘

正道 (東京大・昭29)



平成25年秋、瑞宝中綬章を頂く栄に浴しました。昭和43年に私は新設の本学生化学第二講座の教授に任せられ、定年退職までの28年間、多くの同僚と共に研究と教育に精励いたしました。それを認めて頂いたものと感謝しております。私は厳しい教師でしたが、その基礎には若い時の負の体験がありました。それを記しましょう。

昭和29年に私は東大医学部を卒業し、大学院で故吉川春寿教授(栄養学講座)に師事し、良い教育を頂きました。それでも当時の生化学の最先端の研究は無理でした。師弟ともに懸命に努力しましたが、戦争による十数年に及ぶ研究の空白が大きすぎました。私は自分の中に指針を作れず、迷っていました。

事を順調に進め、3年後、千葉大学に異動したのです。千葉での新設講座の初めは大学紛争と重なり苦労しました。研究領域は代謝酵素学、とくに酵素調節で、医学の基礎として臓器の特性と助け合いを意識した尿素回路、ついでスクレオチド及びその前駆体合成系を主な対象としました。いく

旭日双光章

叙勲によせて



平成25年秋の叙勲において旭日双光章を受章させて戴き11月6日千葉県森田知事より伝達、11月8日家内と共に皇居豊明殿においてまいりました。地元旭市医師会はもとより千葉県医師会、さらに同窓会の諸先生

その後、東大、米国留学などを経て、昭和39年に、再び京大の早稲田教授のお誘いで、大教室の助教3名の1人として、厳しい修行に入ります。教室経営はさらに整備され、学部教育も入念で、研究者の学会発表の訓練も徹底していました。その仲間から、後に先生を含め、6人が学士院賞を受章者となりました。私は仕

つかの新酵素たんぱく質を世に送り出しました。学会の分子生物学への傾斜はすでに顕著でしたが、未完の仕事に忠誠を尽くし、結果的には代謝酵素学の締めくくり役を務めました。科学者の心構え、「己が屍を踏み石にして、より高きに近づかん」を最後に記しておきます。

佐々木 守 (昭37)

め、内会長を4年間、同医師会付属旭市看護学校校長を9年間勤めました。医師会長時代は千葉市まで遠い道でしたが、当時県医師会長藤森宗徳先生、八千代市医師会長杉岡昌明先生、千葉市医師会長伯野伸彦先生など非常に優秀な同級生に助けられ楽しい日々でした。旭市看護学校は深刻な看護師不足を解消すべく旭市の先輩医師会全員が大変苦労して昭和38年4月開校しましたが諸般の事情により平成13年3月閉校のやむなきにいたったもので学校長として辛い閉校処理をしなければならなかった。平成12年4月から介護保険法が施行されるにあたりその前年から旭市介護認定審

査会会長として研修等に参加、平成25年3月まで14年間いろいろな業種の委員の人たちと介護認定についての話し合いのなかで介護保険について勉強することが出来充実した時間帯でありました。このほか市の公衆衛生関連、保育所幼稚園嘱託、学校保健、予防接種など出来る限り地域保健衛生活動に積極的に参加協力してきました。就中学校保健校医関係では小学校(2校)延合計27年間、中学校22年間、高等学校22年間、その他嘱託医として保育所19年間、幼稚園22年間勤務しております。

祝 叙勲

平成25年 秋の叙勲

旭日双光章

福田 武隼 (昭42)

人事異動

理事

中谷 晴昭

(北海道大・昭49)

教授

小児病態学

下条 直樹 (昭54)

予防医学センター

戸高 恵美子 (平17院)

同センター准教授より

藤田 伸輔

(神戸大医・昭59)

近藤 克則 (昭58)

日本福祉大学教授より

特任教授

総合医科学講座

佐野 剛一

(金沢大・平3)

准教授

東京医科大学准教授より

細胞治療内科学

竹本 稔

(富山医大医・平5)

田中 知明 (平4)

同講師より

予防医学センター

花里 真道

(千葉大工・平14)

同センター特任准教授より

救急集中治療医学

渡邊 栄三 (平9)

同領域講師より

画像診断・放射線腫瘍学

本折 健 (平5)

同領域講師より

診断病理学

矢澤 卓也

(筑波大・昭63)

杏林大学医学部准教授より

附属病院地域医療連携部 井出 博生 (慶大政策メディア 研究科・平10)

寄付研究部門教員より

附属病院感染症管理治療部 猪狩 英俊 (昭63)

千葉東病院呼吸器センター長より

講師

消化器・腎臓内科学

千葉 哲博 (平8)

附属病院助教より

感染生体防衛学

野呂瀬 一美 (信州大・昭52)

同領域助教より

細胞分子医学

指田 吾郎 (東京医大・平8)

同領域助教より

先端応用外科学

上里 昌也 (福島県医大・平8)

同領域特任講師より

附属病院神経内科

平野 成樹 (平19院)

同科助教より

附属病院呼吸器内科

多田 裕司 (岡山大・平4)

同科助教より

附属病院心臓血管外科

坂尾誠一郎 (平5)

同科助教より

附属病院心臓血管外科

上田 秀樹 (金沢大・平2)

同科助教より

附属病院小児病態学

菱木はるか (平8)

医学研究院助教より

附属病院集中治療部

安部 隆三 (平11)

同部助教より

# 各地おののはな会 だより

## 山梨おののはな会

平成25年度山梨おののはな会総会が平成25年6月13日、甲府市のホテル談露館にて開催されました。本年度は15名の先生方にご参加を頂きました。また4名の新入会員のうち2名の先生にご参会頂き、久しぶりに新たな先生方を迎え若返った気分になりました。



会は清水天会長のご挨拶に引き続き、昨年御逝去された跡部勝朗先生(昭25)に全員で黙とうを捧げました。続いて平成24年秋に瑞宝小綬章を叙勲されました飯田龍一先生に記念品の贈呈とご挨拶を頂きました。

ご挨拶の中で卒業時の事、学生運動の時代、研修医、甲府の病院への赴任の時の事などをお話しいただきました。

その後、横山宏先生の乾杯、ご挨拶を頂き、和やかにうちに歓談を重ねました。新入会員の中山光由、小林哲先生の紹介とご挨拶、続

いで出席者全員の近況報告に移りました。諸先輩からの千葉時代の懐かしい話題、新入会員からの報告に驚きつつ時間はあつという間に過ぎ次回の再会を約束し閉会となりました。さらに二次会へと進出された先生もおられました。

今年度から幹事事務局を細田と鶴田が引き継ぐことになりました。よろしくお願い致します。早速、私の不手際で報告が大変遅れご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

写真右から

- 前列：小林清房(昭27)、飯田龍一(昭41)、清水天(昭39)、横山宏(専25)
- 中列：中澤肇(昭52)、山口正敏(昭39)、花輪孝雄(昭45)、古屋好美(昭53)
- 後列：中山光由(平5)、市川智章(昭63)、大西洋(昭63)、小林哲(金沢大・平11)、土地岳彦(平12)、鶴田好孝(昭54)、細田和彦(昭58)
- (鶴田好孝)

## 多摩おののはな会

平成25年10月19日(土)、国分寺駅ビルLサロン飛鳥にて第39回多摩おののはな会が開催されました。当おののはな会は旧都立府中病院



(現多摩総合医療センター)の前身である都立府中療養所の結核外科の先輩方が昭和30年ごろから年一回近隣の同窓も交えて集まっていたことから始まります。今回正確には第50回ですが、記録として残っている回数で約40回となります。今回の講演は前青梅市医師会長の野本正嗣先生が「最近5

年間に行った死体検案症例の検討」と題して約1700例！の検案のまとめを報告されました。浴槽入浴中はくも膜下出血が比較的多いとか、トイレでは大動脈解離も多いとか、また自殺IIアポトシス説まで出て、まさに目から鱗の講演でした。続く懇親会では会長の鈴木光先生の挨拶の後、全

員の近況報告と(佐野先生、浅見先生、小山先生は現役引退されていますがお元気で)、多摩総合から参加された若い二人の後期研修医の女医さん(大橋佳奈先生、川合祥子先生)を交えて、和やかに夜8時まで歓談し、次回来年の再会を約して散会しました。

写真右から

- 前列：上田源次郎(昭53)、山本弘(昭39)、小山明(昭35)、佐野迪雄(昭29)、浅見敦(昭30)、鈴木光(昭36)、石川てる代(昭53)
- 後列：川合祥子(平23)、松原公護(昭54)、野本正嗣(昭54)、桑木綱一(昭41)、藤田明(昭55)、久満薫樹(昭40)、大橋佳奈(平21)
- (上田源次郎)

## 松戸おののはな会

平成25年度松戸おののはな会は平成26年3月1日(土)に聖徳大学10号館12Fセラネにて開催されました。千葉大学大学院医学研究院呼吸・循環治療学研究講座麻酔科学教授の磯野史朗先生をお招きし、「睡眠時無呼吸症候群・あらゆる診療科で重要です」と題する講演をして頂きました。座長を松戸市立病院麻酔科部長の萬

伸子先生にお願いしました。開会前は「OSAS(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)と麻酔科との関連は？」との思いを抱いていた会員が多かったようですが、講演が終わると会員からの質問が相次ぎ熱を帯びた質疑応答の場が懇親会へと持ち越されました。

あらゆる診療科で重要です」との言葉通り、OSASが心不全の悪化要因となっていたり、成人の頻尿やこどものおねしょの一因であったりすることなどを教えていただき、参加した内科、呼吸器内科・外科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、小児科、外科などのすべての会員にとって関心の持てる内容でした。中でも特筆すべきは安宅洋美先生との共同研究で、関節リウマチ患者のOSASを診断し頸椎手術で治療したというものでした。OSASの存在を知りながら自身の日常診療とは縁遠いものとの認識を大きく変えざるを得ない講演会でした。

磯野教授は卒後まもない昭和61年4月より1年間に松戸市立病院麻酔科の勤務医として過ごされました。当時の市中病院では経験する機会が少なかった新生児外科や心臓血管外科の麻酔



の経験が現在に役立っていることでした。

今回参加した3名の若き研修医が、松戸市立病院での臨床研修了後も大学病院をはじめとする他の施設でさらに研鑽を積み、いつの日かその成果を松戸地域に持ち帰って後輩の指導に当たっていただける日の来ることを期待したいと思います。

す。

写真右から  
前列：阮秀山(昭44)、萬伸子(昭54)、大塚薫(昭47)、小林伸行(昭41)、磯野史朗教授(昭59)、小野和則(昭51)、渡辺寛(昭41)、菅沼絵美理(平18)  
後列：馬場雄介(平24)、粕谷忠道(平25)、永畷裕樹(平24)、小野元子(昭51)、



宮下智大(平11)、堂垂伸治(昭60)、安宅洋美(金沢大・平元)、田代淳(昭60)、木村亮(昭57)、澁谷潔(昭61)、高村大(昭63)、青木俊郎(昭63)  
撮影時不在：石島秀紀(昭60)、山本史子(山形大・平5)

**熊本大学  
もの は な 同窓会**

平成26年2月19日(水)  
に、熊本大学医学部附属病院に關係する千葉大学出身者による熊本大学もの は な 同窓会を初めて開催しました。熊本で日本心臓血管外科学会が開催されたのを機会に、弘前大学胸部心臓血管外科教授の福田幾夫先生(昭54)、長崎大学心臓血管外科教授の江石清行先生(昭57)に声をかけて、総勢6名で熊本市内の「和食むら」にて行いました。私が知る限りですが、現在熊本大学医学部附属病院には千葉大学出身者が3名(山本達郎(昭57)、麻酔科、鈴木実(平元)、呼吸器



外科)、原田美穂(旧姓：古田)(平14、皮膚科・形成外科)、あと熊本大学から荒尾市民病院外科に向向された1名(塚本千佳(旧姓：石川)(平9、外科)がいます。以前は、第一外科に宮内好正教授が、耳鼻咽喉科には石川孝教授が在職されていましたが、現在はこの4名となっております。

初対面が多かったため、最初は少しぎこちない会話で始まりましたが、次第に和気藹々とした雰囲気となりました。特に鈴木先生は青森出身で、福田先生とは話が弾んでいたようでした。これからも、時々熊本でこのような同窓会を行っていきたいと思っています。興味のある方がおられましたら、ご連絡をお待ちしております。

**西千葉医師の会**

齋藤康学長が今年度末で退任されます。平成26年3月5日(水)、西千葉の名フレンチ Chez les Anges (シエ・レザンジュ)にて「齋藤先生を労う会」と称しまして西千葉医師の会を開催致しました。総合安全衛生管理機構長今関文夫教授の音頭でシャンパンでの乾杯。まずは目でも楽しんで前菜に始まり、テーブル毎に話に花が咲きました。ワインの選定は徳久理事にお願いし、美味しい赤ワインを頂きながら恒例の自己紹介と近況報告となりました。今回から参加、いきなり幹事という大役の吉田先生から活力に満ちた自己紹介があり、各自が各々の話題を提供し、お料理がさらに美味しく頂けました。健診のIT化の実現見込み報告(何



ら、ご連絡をお待ちしております。

写真右から  
前列：山本達郎(昭57)、福田幾夫(昭54)、江石清行(昭57)  
後列：原田美穂(平14)、鈴木実(平元)、塚本千佳(平9)

といままで手作業！)、我が国とアジアにおける早期才能支援プログラムについての紹介と教育学の現状、四十肩の治療相談、フンボルト大学(ドイツ)との大学間交流協定締結時の秘話、外部資金獲得状況など、多数の大変興味深いお話を伺いする事が出来ました。総合安全衛生管理機構 潤間勸子講師から華やかな花束を齋藤学長へ贈呈、最後に参加者で記念撮影を行い、

次回の開催を約束し散会となりました。

写真右から  
前列：川平洋(平4)、齋藤康学長、潤間勸子(平4)、吉田知彦(平9)  
後列：野村純(佐賀医大・平元)、森千里(旭川医大・昭59)、五十嵐辰男(昭52)、徳久剛史(昭48)、今関文夫(昭54)、鈴木昌彦(昭60)、藤本浩司(平20院)、大溪俊幸(平9)

(川平洋)

# ク ラ ス 会

## 六葉会 (専24)

毎年10月の最終日曜日に開かれていた六葉会同窓会も、一昨年(平成24年)は出席予定7名のため申し合わせに従い、中止となってしまいました。しかし、昨年12月1日の同窓会(平成25年度)には9名の会員から出席の返事があり開催することとなりました。当日になりますと、会場である「銀座アスター御茶ノ水賓館」には11時30分から集まり始め、開宴予定の正午には8名揃いましたが、山川晋吾君1人の姿が見えず、電話連絡をしたところ、出席できないとの返事をいただきましたので8名で開宴することといたしました。

神山幹事より、平成24年度会計報告ならびに事務的連絡事項の話があり、全員一致にて承認をいただき、次いで徳政幹事の挨拶ならびに乾杯の音頭により開宴となりました。

次に出席者夫々のコメントを紹介します。

トップバッターの幡野君は、老人用の杖2本を使つての歩行で身障者1級の手

帳をもらつていながら出席され、全く暗いところもなく朗らかで、現在でも診療されているとのことと頼もしくなりました。木村君は月一回の診療ではあるが、診療日には朝8時から夕方9時まで昼休みもなく頑張っているとの話でした。霜島君は毎日適量のアルコールを楽しみながら診療を行っているとのこと、これに対し、中村君はアルコールはやらないが余生を楽しむながら過ごしているとのことでした。小笠原君は開業して60年になり、今でも1日50人の患者さんを見ており、週1日の休みには、北海道大雪山にて鹿狩り、熊狩りを楽しんでいるとのことでした。神山君は、現在でも週3日間は分婉の業務に携わっており、なかなかゆつくりする時間がないとのことでした。小生(徳政)は大学退職後、28年間日曜祭日以外は毎日診療を行っていましたが、平成25年11月からは、週1日だけ外来診療をやることとし、他の5日間は子ども達に任せて余暇を楽しむつもりでおりましたが、なかなか切りかえができません苦労しております。

以上のように全員からスピーチをいただいているう



ちに、閉会予定時間をはるかに越えてしまいました。皆さんの話を聞いていられるうちに、医師は何らかの形で医業に従事することが健康の秘訣ではないかと感ずるようになりました。今後今回の出席者だけでなく、同窓生全員が健康管理に注意し、来年、再来年のみでなく、ゴールである米寿の

同窓会に全員元気に再会することを約して散会致しました。

写真右から  
前列：神山一郎、徳政義和、村磯旺嗣、小笠原竜雄  
後列：幡野永由、木村強、中村彰、霜島正雄  
(徳政義和)

## さんご会 (昭35)

平成26年の「さんご会」はるのはな同窓会副会長の 大井利夫君の肝煎りで竣工式を終えたばかりの新しいのはな同窓会館で3月8日開催された。新会館で行われるクラス会としては第一号であり、会場となったホールは広々として採光もよく床暖房もたっぷり効いており、22名の出席者いすれも新同窓会館の出来具合に感心していた。

開会に先立ち医学部構内の見学を行ったが、なにせ現医学部の建物で臨床講義、実習を受けたクラスであり、なかには卒業初めて大学を訪れたという人もいて附属病院の各棟、建設中の外来棟の規模にびつくりする。スマートな図書館も好評であった。東病棟最上階から変貌した千葉市内を眺め、最後に医学部の建物内に立ち寄り若き日を思い出しながら会場に戻る。多くの新しくできたものの中にも、医学部の田の字の建物、旧精神科病棟、七天王塚、連絡道路の桜並木、野球場など懐かしい風景も残っており、感懐ひとしきりであった。

1時より幹事、三橋稔君



の開会の辞に始まり、昨年お亡くなりになった佐藤通沈重博氏を偲び黙祷後、ビールで乾杯し宴会に移る。三橋君より差し入れの日本酒、谷嶋つねさんよりの葡萄酒にのどを潤しながら、みどり寿司の出前料理に舌つづみをうつ。それぞれの近況紹介、雑談にふける間にあつという間に4時を過ぎ、次回も三橋君の幹事で桜の花開くころ新同窓会館にて開催と決まり終了となった。出席者の全員が元気で現在何らかの医療関係の

仕事をしており、約半数は週5日働いているという。卒業54年目になるバンカラ世代のさんご会の面目躍如である。文末になるが、休日にもかかわらず最後までお世話頂いたのはな同窓会事務局の清水さんほかの皆さんには感謝、感謝である。

写真右から

前列…横山孝一、徳江幾郎、野口力、谷嶋つね、成田静子、館野翠、母里啓子、後列…草刈隆、藤村真示、海保允、増田善昭、佐藤重明、佐藤甫夫、神田敬、大井利夫、市村公道、貞永嘉久、小山明、真島吉也、堀江武、紅谷周、三橋稔  
(増田善昭)

郷士会 (昭54)

平成26年2月15日(土)の夕方、帝国ホテルにて郷士会(昭和48年入学あるいは昭和54年卒業)を開催しました。同窓生の多くがこの1-2年の間に60歳になるため、還暦のお祝いを兼ねました。今冬は、各地で60年ぶりの記録的な大雪と報道され、関東でも1週間前に続き、当日も大雪が降り、交通機関に影響がでて、出席予定の遠方の同級生は

参加することができませんでした。それでも、関東のみならず、大阪市、金沢市、浜松市などから懐かしい顔ぶれがそろい、40名が集まりました。今回は2年ぶりの再会で、白髪の人や髪の毛が薄くなった友人が増えましたが、女性は昔の容姿を維持していました。受付は杉浦信之君、梶川工君、司会は田川雅敏君、齋藤正仁君が務めました。異浩一郎君より開会の挨拶、杉田克生君より庶務報告があり、今までに他界された同級生6名に対して黙祷を捧げました。今年古希を迎える松原公護君の乾杯で会が始まりました。千葉大学総合安全衛生管理機構長に就任した今関文夫君、千葉大学大学院医学研究科小児科学教授に就任した下条直樹君より挨拶がありました。その後、参加者全員に近況報告をしてもらいました。管理職につき忙しい人、開業が順調に行き跡取りも決まった人、医師会で活躍をしている人、仕事の合間に趣味のスポーツに打ち込んでいる人、定年を迎え医療現場から引退しこれからの人生を楽しむ人など、様々な人生を送っている話を聞き、卒業35年の年月の長さや人生の多彩さを感じました。和気藹々



の2時間はあつという間に過ぎ、二次会を同ホテルの最上階にあるアクアで行いました。20名の同級生が参加し、夜景を眺めながら、学生時代に戻って楽しいおしゃべりが続きました。今回は2年後といわず、毎年集まりたいという意見が多く、再会を約して、家路につきました。

写真左から

前列…小林繁樹、石川広巳、吉田明子、萬伸子、高田郁子、高田啓一、異浩一郎、松原公護、杉田克生、角南祐子、山崎正子、岡田修。2列目…齋藤正仁、永瀬裕三、稲葉英夫、小林進、篠遠仁、齋藤博明、巷岡博、白土英明、野本正嗣、村上正純、諸田英夫、古関啓二

郎、中村真人。後列…今井均、高田彰、鈴木良一、下条直樹、今関文夫、龍岡穂積、田川雅敏、高野正一、宮本恒彦、栗原正利、難波宏樹、沼田勉、杉浦信之、廣島健三、梶川工  
(廣島健三)

理想の保険のかたちを  
オーダーメイドでつくりませんか

**Total assist**

超保険

損害保険のお引受けは  
東京海上日動火災保険(株)、  
生命保険のお引受けは  
東京海上日動あんしん生命保険(株)  
になります。



**東京海上日動**

TOKIO MARINE Quality 東京海上グループ

医療・福祉法人部：東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014  
☎0120-323-523 平日午前9時～午後8時、土日祝日午前9時～午後6時(年末年始は除く)  
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

# 研修プログラム

## 皮膚科

千葉大学大学院医学研究院  
皮膚科学

教授 松江 弘之 (昭62)

皮膚は体重の約15%を占める人体で最大の臓器であり、水分の透過や喪失を防止したり、体温を調節したり、微生物や物理化学的な刺激から生体を守ったり、感覚器としての役割を果たすなど、生命を維持するための必要不可欠な機能を備えています。

(画像検査、血液検査、細菌培養など)を必要に応じて施行します。

当科には、千葉県内外から多くの疾患の方が来院されます。その多くは他院からの紹介患者さんで、難治性・重症皮膚疾患、診断困難症例、皮膚悪性腫瘍が多いのが特徴です。特に、皮膚悪性腫瘍の手術件数が多く、皮膚科専門医を目指す人は植皮を含む皮膚外科の基本的な手技を効率よく修得できます。また、深在性皮膚真菌症などの感染症や自己炎症性疾患などの診断・治療も行っております。当科ではこのような稀な症例の臨床経験を積むことができます。接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性乾癬などのcommon diseaseの難治例に対しては、それぞれの疾患に対する最先端の治療も行っていますので、それらの治療法も習得できます。また、千葉県内の他の研修施設群と

皮膚科は文字通り皮膚疾患を扱う診療科です。扱う疾患も湿疹、蕁麻疹、薬疹といった皮膚の炎症性疾患から、膠原病、血管炎、代謝異常症といった内臓疾患に伴う皮膚病変、水疱症、膿疱症、角化症、色素異常症、皮膚感染症(細菌、真菌、ウイルス)、良性腫瘍や悪性腫瘍に至るまで多岐にわたります。診断に関しても問診、視診、ダーモスコピー診断だけでなく、皮膚生検による病理組織診断、種々のアレルギー・免疫検査、光線過敏試験、超音波検査、発汗試験、真菌検査、細胞診、その他の一般検査

密接に連携し、日本皮膚科学会の策定した研修カリキュラムのすべてを研修できるように研修体制を組んでいます。

一方、当教室では臨床研修のみではなく研究にも力を注いでいます。臨床研修はもちろん大切ですが、研修で経験した疾患に対して、その病因・病態・治療等に興味や疑問を持つことも重要です。何がどこまで解明されているのかを科学的に説明できるようになることを目指しています。世界に通用する幅広いリサーチマ

インドを持って臨床に臨むことが重要だと考えています。そのためには、研究にも興味を抱いて取り組んでもらえるように指導していきます。その方策として、大学院への進学や、海外留学も積極的に勧めています。皮膚科専門医を目指す方はもちろんですが、他科に進まれる方、皮膚科に少しでも興味があり迷われている方も研修選択は大歓迎です。私たちと一緒に皮膚科の魅力を経験してみてください。

### 社会福祉法人 聖隷福祉事業団

#### 聖隷横浜病院

病院長・千葉大学医学部臨床教授

岩崎 滋樹 (昭和大・昭58)

聖隷横浜病院は、横浜市保土ヶ谷区にあり、横浜市のほぼ中心に位置する300床の病院です。横須賀線で横浜駅から一駅目の保土ヶ谷駅から徒歩12分の高台にあり、横浜市の都心部から近く近くとは思えないほど静かな環境です。国立病院の再編計画により、2003年3月から社会福祉法人聖隷福祉事業団が経営移譲を受け、聖隷横浜病院として再出発をいたしました。

前身の国立横浜東病院は、千葉大学からの医局派遣が大変に多かった病院であり、聖隷横浜病院というより、国立横浜東病院の方が遙かに馴染みのある先生方が多いと拝察します。当院開設時には、第一内科3名、消化器外科4名、整形外科2名、眼科1名その他千葉大出身医師1名を含む総員20名のうち過半数を千葉大の医師でスタートしました。その後医療崩壊の波が当院

にも及び、残念ながら眼科、第一内科は撤退となりましたが、開設時より、副院長兼外科部長・郷地英二(昭61、外科)、整形外科部長・天野景治(平5、整形外科)の2名が牽引役となり現在に至っております。その他の千葉大出身もしくは派遣医師は、消化器外科部長・野澤聡志(平2、外科)、外科主任医師・齋藤徹(平10、山梨医大)、外科主任医師・永井哲之(平10、金沢大)、外科・石神恵美(平20、岐阜大)、外科・寺中良太郎(平23、外科)、整形外科主任医師・山田寛明(平9、新潟大)、整形外科医長・横谷純子(平12、整形外科)、呼吸器内科部長・永川博康(平8、新潟大)、呼吸器内科医長・小西建治(平13、呼吸器内科)、消化器内科医長・石橋啓如(平14、消化器内科)、麻酔科・粉川敦子(平10、千葉大)、研修医・大平健司(平25、千葉大)の14名が千葉大学関連として在職しております。



当院は、救急医療、医師初期研修、そして働きやすい病院環境に力を入れてお

ります。救急医療ですが、救急科医師3名、救急救命士3名その他で、横浜市救急拠点病院に認定されて、年間約4000台の救急車受入を行っております。働きやすい病院環境については、短時間正社員医師(ジョブシェア医師)制度を7年前から開始し、延べ22名の医師が利用し、現在でも11名の医師が在籍し、2010年には日経新聞の「けい子育て支援大賞(医療機関では2施設目)」を受賞

しました。初期研修ですが、この6年間は、毎年20名弱の応募があり、1学年定員6名ですが、フルマッチが続いております。千葉大学からもたすき掛けて1年目の医師が1名ずつこのところ切れ目なく派遣していただいております。大変感謝しております。また臨床研修の精度向上のため、卒後臨床研修評価機構(COPE)を受審し、横浜市で2番目に認定され、加えて初回で4年認定のご評価を頂けました。

研修1年目は、内科系を中心に、救急医療、麻酔科を研修し、2年目は、救急医療、地域医療と外科に加えて選択科目として、当院のみならず大規模施設での研修も選択できることになっております。2年目には千葉大関連の平和病院にて地域医療を学ぶことができます。研修医の環境として

は、建物が古いことを除き概ねご評価いただいています。当院は現在新病院建築計画策定中ですが、諸物価高騰している中、何とか早くご報告できるように頑張っております。これからは千葉大学から多くの研修医が当院に来ていただくことを願っております。

**埼玉県厚生農業協同組合連合会**

**熊谷総合病院**

院長・千葉大学医学部臨床教授

木村道雄 (昭50)

熊谷市は、埼玉県北部に位置し、人口約20万人の都市です。医師住宅(借り上げ)から徒歩15分圏内に熊谷総合病院、熊谷駅、駅ビル3棟、市役所、郵便局(本局)、百貨店、大型ショッピングセンターなどがそろっています。東京のベッドタウンでもあり、上野駅、池袋駅には在来線で50〜60分程度、新幹線では都心まで30〜40分程度でアクセスできます。

は、多数の山車が出て地方都市ならではの活気に溢れます。当院は昭和23年創立、昭和47年に現在地に移転し、平成25年4月に外来部門・一部病棟、7月に放射線・手術部門を新設しました。新棟が建てられたばかりで、外来や手術室などがとても綺麗になり職員の士気も高まっています。

暑いことで有名な場所ですが、市民はむしろそれを自慢とし、「暑い熊谷」をスローガンに街を盛り上げています。真夏に行われる最大のイベント「うちわ祭」

訪問看護ステーションを併設し、健診業務と在宅医療にも取り組んでいます。千葉大学との協力型で卒後臨床研修を長年行ってきましたが、平成25年9月に基幹型臨床研修病院にもなりました。今後は、多数の研修医が当院で研修する姿が見られるようになると期待しています。

当院の研修プログラムの特色・目的は、「あらゆる疾患の患者さんと接する職業である」との認識を踏まえ、幅広い社会性と暖かい人間性を養えるよう研修を企画すると共に、各診療科では、医師として基本的な診療能力を習得出来るプログラムを目指しています。同時に、将来の志望を見据えた選択科目の研修期間も十分取れるようにしています。また、医師としての基盤形成の時期である初期臨床研修時において、患者さんを全人的に診ることが出来る基本的な診療能力を習得することにより医師としての資質の向上を図り、医師にふさわしい人格を要請することを目的としています。

模の病院ならではの暖かい雰囲気があります。研修3か月目ぐらいからは当直も行うようになり、上級医と患者さんに対応することから始まり、慣れてくると一人で初期対応をすることにようになります。重要な場面では必ず上級医が援助しますので、安心して研修を行うことができます。医局では、机にインターネットが繋がっており、病院が契約している医学中央雑誌等で論文の検索等も行えます。また、勉強会や講演会等の情報もたくさん入り、それらに参加することも出来ます。忙しいながらも日々の仕事の他に、症例発表や病理解剖に立ち会う等の貴重な経験も出来ます。当院は埼玉県北部の中核基幹病院ということで、プライマリ・ケアを中心に多くの症例を経験できる研修施設です。希望とやる気があれば、より専門的な診療への参加も可能です。大病院等とは異なり、科ごとの垣根が低く、複合的な疾患の診療がし易くなっています。また、コメディカルとの人間関係も良好で、研修医の先生が働きやすい環境が備わっていると思います。皆さんの参加をお待ちしております。

中規模の病院ですが研修医が経験すべき一般的な疾患や手技を多く経験できます。医局の雰囲気はこの規

模の病院ならではの暖かい雰囲気があります。研修3か月目ぐらいからは当直も行うようになり、上級医と患者さんに対応することから始まり、慣れてくると一人で初期対応をすることにようになります。重要な場面では必ず上級医が援助しますので、安心して研修を行うことができます。医局では、机にインターネットが繋がっており、病院が契約している医学中央雑誌等で論文の検索等も行えます。また、勉強会や講演会等の情報もたくさん入り、それらに参加することも出来ます。忙しいながらも日々の仕事の他に、症例発表や病理解剖に立ち会う等の貴重な経験も出来ます。当院は埼玉県北部の中核基幹病院ということで、プライマリ・ケアを中心に多くの症例を経験できる研修施設です。希望とやる気があれば、より専門的な診療への参加も可能です。大病院等とは異なり、科ごとの垣根が低く、複合的な疾患の診療がし易くなっています。また、コメディカルとの人間関係も良好で、研修医の先生が働きやすい環境が備わっていると思います。皆さんの参加をお待ちしております。

熊谷駅は新幹線の停車駅でもあり交通アクセスも良好です。是非一度病院見学に来ていただき初期研修先の候補として考えていただければと思います。当院への千葉大学から派遣または出身の医師(平成26年2月現在)

内科・五月女直樹(昭49、理事長兼名誉院長)、木村道雄(昭50、院長)、斎藤雅彦(平3、診療部長)、土合克巳(平3)、門野源一郎(平6)、石神智行(平22)

外科・遠藤正人(昭59、診療部長)、平山信男(平8)、赤井崇(平8)、玉地智英(島根大学・平22)

整形外科・西山秀木(昭54、副院長)、今野慎(昭62、診療部長)、太田秀幸(広島大・平1)、伊藤俊紀(川崎医大・平19)、吉野謙輔(旭川医大・平21)

健康管理センター・吉田良平(昭49、センター長)

初期研修医・高井啓有(秋田大・平25)



人にやさしい“くすり”を世界の人びとに

**株式会社 三和化学研究所**  
 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631  
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

# 研修医だより

## 後期研修1年目を振り返って

千葉大学医学部附属病院眼科

古 谷 奈 々 (平22)



初めの半年は指導医の入院症例と一緒に担当し、細隙灯顕微鏡の使い方や眼底の見方など基本的な事項を学びました。ゼロからのスタートでしたが、症例を経験していくうちに徐々に分かる事が増えてきました。眼底がみえるようになった時はとても嬉しく思いました。週に2度教授診察を見学させて頂いた際には、判断に迷う症例や重篤であったりと専門性の高い症例を診る事が出来、とても勉強になりました。また、定期的に蛍光眼底造影検査の読影会・症例検討会があり、自分が担当していない症例からも学ぶことが出来ました。

私は平成22年に千葉大学医学部を卒業いたしました。2年間外病院で初期臨床研修を行い、さらに1年間口内・テーションをした後に千葉大学眼科に入局させて頂きました。

臨床研修を行い他科とも迷いましたが、生きていく上で非常に重要な感覚器を扱うことに魅力を感じたこと、検査・診断・治療の全ての段階で関われること、手術を自分もやってみたいと思ったことから眼科を選択しました。千葉大学は母校でもありましたが、医局の雰囲気明るく活気にあふれていたこと、担当症例が豊富であること、第一線で活躍されている女医さんが多くいらしたことから入局を決めました。今年度は後期研修1年目

があり、大変勉強になっております。市中病院では中々みられない疾患も数多く経験することが出来、学ぶべきことが多く忙しいですが、とても充実しています。

この一年は、手技はあまり出来ないのではと覚悟していましたが、予想以上に経験を積ませて頂きました。レーザーや硝子体注射などの処置や、白内障手術を上級医の指導の下始めております。手術の練習で、月に1〜2回豚眼実習を行っています。これはBSLの学生も参加しており、興味を持ってくれる方も少なからずいる印象です。

そして後期研修では、全国学会・地方会・研究会などでの発表の場もあります。私も地方会で2度ほど発表の場を頂き、日常診療のみでは知り得ない事を学び大変有意義でした。また海外学会にも参加させて頂き、国内外の先生方の発表を聞きました。来年度には海外学会での発表もさせて頂く予定で今からわくわくしています。

日常診療・臨床研究いずれにおいても、手厚いバックアップの下、多くの事を経験できる環境で研修でき

たのはとても幸せなことだと感じております。一から丁寧に教えて頂いた先生方やコメディカルの方々には大変感謝しております。最後に、今後私たちの同

## 同窓会員著書の紹介

松永正訓(昭62) 著

運命の子トリソミー

短命という定めの子を授かった家族の物語

小学館 定価 一、五〇〇円(税別)

清水 栄司(平2)



「出生前診断に二石を投じる小児外科医の記録」人間の生命は、両親から一本ずつ染色体を受け継ぎ誕生しますが、染色体が三本に増えている病気がトリソミーです。異常のある染色体の番号によって、「13トリソミー」「18トリソミー」「21トリソミー(別称・ダウン症)」などがあります。13トリソミーの赤ちゃんは、心臓の奇形や脳の発達障害があるため、半数が1か月ほどで、ほとんどが1歳までに死亡します。本書は、小児外科医である著者が「地元の治療医として13トリソミーの赤ちゃんの面倒をみてほしい」と近隣の総合病院から依頼され、朝陽(あ

さひ)君とその両親に出会うところから始まります。朝陽君の両親は我が子を受け容れ、自宅へ連れて帰り愛情を注ぎます。そして障害児を授かったことの意味を懸命に探ります。著者は朝陽君の自宅へ訪問をくり返し、家族と対話を重ねていきます。また、その他の重度障害児の家庭にも訪れて、「障害児を受容する」とはどういうことなのかを考えていきます。やがて朝陽君の母親は、朝陽君が「家族にとつての幸福の意味」を伝えてくれる運命の子であることに気がきます。出生前診断の是非が問われる中、「命を選ぶ」とする考え方に「本著は大きな一石を投じます。」

先生はご自分へも自問し、そして障害児を育てていらっしゃるご家族のみならず、真摯な姿勢で度々、問いかけていらっしゃると思います。このようなストレートな質問は、ノンフィクション作家ならではのものと感服いたします。朝陽君とご家族だけでなく、他の障害を持つご家族や、医師の方などに対しても、精力的に取材していらっしゃる。「短命という定め」に対して、多角的に、ノンフィクション作家としての眼差しを向けられています。あつという間に読了しました。次回作にも期待しております。ぜひ、同窓の先生方にも手に取り、読んで頂けたらと思います。

松永正訓先生より  
2008年に講談社から出版された「命のカレンダー」は、中央公論社から文庫本「小児がん外科医 君たちが教えてくれたこと」のタイトルで発売されました。「文庫本のためのエピソード」と「文庫本のためのあとがき」を加筆しました。また、森健さん(第34回大宅荘ノンフィクション賞受章)に「解説」を書いていただきました。是非、ご覧下さい。

小児外科医でもあり、そしてノンフィクション作家でもある松永先生は、これまで「命のカレンダー」小児固形がん闘う「命のダイアリー」小児がんを乗り越えた少年・少女たち」などの作品を発表されてきております。

今回ご紹介するご著書により、2013年度第20回小学館ノンフィクション大賞を受賞されました。以下、出版社のサイトにおける紹介文を転載させて頂きます。

「運命の子 トリソミー」短命という定めの子を授かった家族の物語」という題名から、みなさんはどのような話を想像されるでしょうか。松永先生は、開業される前に、13トリソミーには短命という定めがない、積極的な治療の適応がない、手術をしないというご自分の過去の経験に、疑問を持つところから書き始められています。そして、「障害児を受容する」とはどういうことなのかと、松永



伊藤晴夫 監修  
イラストでわかる前立腺がん



法研 定価 一、四〇〇円(税抜)  
伊藤 晴夫(昭39)

株式会社「法研」より、手術後・退院後の安心シリーズの一環として、「イラストでわかる前立腺がん」を上梓致しました。このシリーズは各科のがんなど、す

ことになりました。この本の副題は長く、治療の合併症・後遺症・副作用の対処法、治療中・治療後の日常生活の処方と推奨する食事、症状別対処法というものです。内容はこの副題より分かるようなものですが、目次は以下の6章よりなっています。1章・前立腺がんを知っておきたいこと、2章・人生設計によって選ぶ前立腺がんの治療法、3章・治療後の合併症・後遺症・副作用への対処のしかた、4章・待機者や再発予防のための日常生活、5章・再発・再燃を予

防する食事、6章・がんにかかるお金と公的制度です。前立腺がんと診断される人は社会の高齢化、食事の変化、前立腺がん検診の普及などもあり急増しています。どのような治療を行うかについては、待機療法を含めて多くの選択肢があります。また治療後も、手術療法、放射線療法あるいは内分泌療法などには合併症や副作用も有り得ます。また、これらは、その性質や重篤さなど大きく異なっています。前立腺がんは、概してい

ずれの治療にも良く反応しますし、その予後も比較的に良好です。したがって、この病気を持って生活している患者さんの数は膨大なものになります。そこで治療中、治療後の日常生活の対処法も大切です。食事をはじめとするライフスタイルは重要で、前立腺がんの予防に寄与するだけでなく、発症後あるいは治療後の進行を遅くさせる可能性もあ

岡野照美(昭39) 著  
DVD歌曲集「北信濃 春秋」

スタジオ スリグ 2013作製  
伊藤 晴夫(昭39)



岡野照美氏は千葉大学医学部を昭和39年に卒業後、東大の内科医局に入り、小布施で開業されました。小布施の有力者として地域への

今回の歌曲集では、九つの詩に曲が付けられています。フルート、チェロ、ピアノの伴奏のもとに4人の歌手が交代で歌っています。9編の詩は次のとおりです。  
楊柳、花海棠  
のうぜんかずら  
一九四五年八月一日  
夏、狐火、時は去りゆく  
夕暮、雪の夜

また、添付の冊子には詩だけでなく宮本廣文氏による水彩画も添えられています。詩と曲を一層惹き立たせています。

第108回医師国家試験成績

試験日	平成26年2月8日(土)・9日(日)・10日(月)
合格発表	平成26年3月18日(火)
受験者	107名(新卒者 102名)
合格者	102名 合格率 96.3% (新卒者 98名 合格率 96%)
参考	国立 合格者 4,165名 合格率 91.5% 全国 合格者 7,820名 合格率 90.6%



選択的DPP-4阻害剤 - 糖尿病用剤 -  
12.5mg  
25mg  
50mg  
100mg  
シタクリアチンリン酸塩水和物  
GLACTIV  
小野薬品工業株式会社

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

小野薬品工業株式会社  
〒441-8584 大塚市中区大塚1丁目20番1号

# 神奈川おののはな会

平成25年 第24号

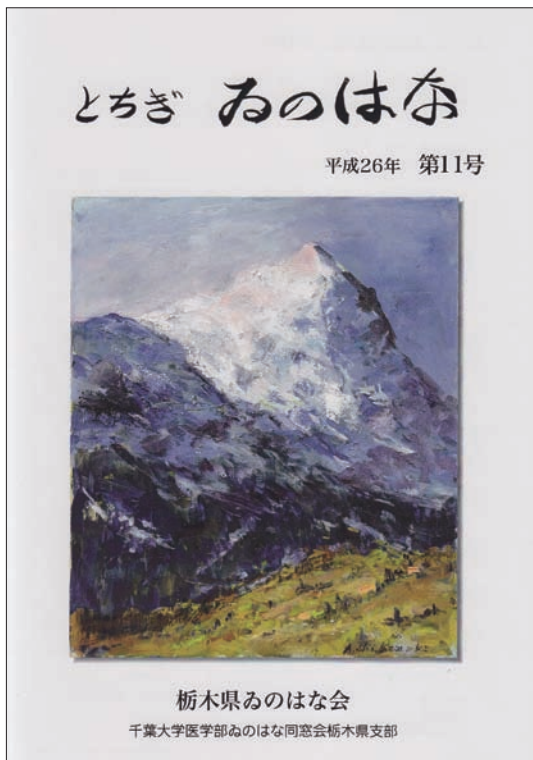


おののはな・かながわ 第24号 目次

巻頭言	国際学会と旅行	柴田 謙郎	2
総会	平成24年度総会開催報告	高山 篤也	4
	庶務報告・決算報告予算案		5
	総会風景		6
	集合写真		7
病院めぐり	聖マリアンナ医科大学そして 聖マリアンナ医科大学病院からの脚挨拶	川上 民裕	8
地区だより	県央地区のおののはな同門会員の近況を報告致します	青藤 伸二	11
身辺雑記	“百寿”を終えて思うこと	松村 準	14
	整形外科的リハビリテーションに思うこと	長尾 龍郎	15
	七十の手習い	福田 淳	17
	ニュージーランドの島たち	川村 ひろみ	19
	やってみせて、言ってみせて、やらせてみて、 はめてやらねば、人は動かず	増田 益功	20
新聞聞業		小野 文明	22
編集後記			23

# とちぎおののはな会

平成26年 第11号



とちぎおののはな会 第11号

目次

巻頭言	藤田 早苗 (NH34号)	1	
総会	平成26年度 栃木県おののはな会 総会プログラム	2	
	会務報告	大津 明夫 (NH35号)	3
	平成26年 会計報告	松田 敏夫 (NH50号)	4
	監査報告	星野 謙 (NH43号)	5
	その他(表紙)	堀田 武典 (NH42号)	5
	総会アルバム		6
	全国おののはな会 会長	伊藤 雅夫 (NH39号)	9
各県おののはな会 会長ご挨拶			
	千葉県おののはな会 会長	三枝 一雄 (NH32号)	10
	東京都おののはな会 会長	津藤 高輔 (NH39号)	10
	おののはな同窓会総会完成記念		11
特別掲載	総長 下野賀総合病院 院長 村野 俊一 (NH50号) 「糖尿病の病態と治療“UP to DATE”」 千葉大学大学院医歯学内外科 教授 藤手幸太郎 (NH63号)		12
同窓病院だより			
	とちぎの本病院	松岡 明 (NH62号)	14
	上野賀総合病院	上野 謙吾 (NH59号)	14
	堀田記念病院	堀田 武典 (NH42号)	15
	国際医科大学病院	山崎 友典 (NH57号)	16
	宇都宮記念病院	橋尾 秀敏 (NH44号)	17
	下野賀病院	村野 俊一 (NH50号)	18
	平成25年度・栃木県おののはな会・トピックス		20
追悼記	和田 康敬先生を偲ぶ	岡崎 弘明 (NH43号)	21
おののはな俳句			
	風しなやかに	北川 武男 (NH32号)	22
	冬の紅	上山 永規 (NH33号)	23
エッセイ			
	表紙絵10年の回顧	栗崎 晃 (NH28号)	24
	全国おののはな同窓会平成25年度活動報告	大井 利夫 (NH35号)	25
	大連旅行紀行	堀田 早苗 (NH34号)	27
	第15回NIPPON 法人外科医会総会を主催して	藤野 謙 (NH43号)	30
	都京に来て	藤野 謙 (NH43号)	30
	ご機嫌な葉書生活	藤野 謙 (NH43号)	30
	聖徳太子	長尾 龍郎 (NH44号)	31
	聖徳太子	西山 智之 (NH7号)	32
編集後記			34
会社だより			35
栃木県おののはな会 会報			38

編者：元栃木県医師会 会長 片山 一郎



選択的DPP-4阻害剤 [2型糖尿病治療剤]  
処方せん医薬品<sup>※</sup> 薬価基準収載

# ネシーナ錠

25mg  
12.5mg  
6.25mg

(アログリプチン安息香酸塩錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

[資料請求先]  
武田薬品工業株式会社  
医薬営業本部  
東京都中央区日本橋二丁目12番10号 〒103-8668

2014年4月作成



# 会員から

## 戦時下の学童疎開

青木敏郎 (昭33)



学童集団疎開という遠い日の出来事であり、そのことを知る人は少なくなっているだろう。この出来事は昭和19年(1944)の夏のこと、昭和20年(1945)8月の太平洋戦争の終わる1年前の出来事である。当時小学6年生で、その体験をした。

太平洋戦争の末期に戦況の悪化を伴って米軍機の本土空襲が激しくなったため、政府は学童、小学校生徒の安全を守るために、東京を始め、横浜、名古屋、大阪、神戸など全国13の大都市、工業都市に住む学童を昭和19年8月から半強制的に地方へ疎開させた。その結果、大都市では子供の遊ぶ姿が町から消えたといわれる。学童疎開の種類には以下の三つのタイプがあった。(1) 縁故疎開 田舎に親戚などの縁故のある学童が、

単身又は家族と共に疎開する。(2) 集団疎開 縁故のない学童は、学校や学年ごとに田舎の旅館や寺に集団で疎開する。

(3) 残留疎開 病弱等により家庭からはなれがたい学童は、残留疎開として、そのまま親元に留まる。

対象となる学年は当初は3年生から6年生迄であったが、空襲の激化により、昭和20年3月からは、1年生と2年生も疎開の対象となり、その数は全国では100万人の学童になった。

その結果、大都市の小学校は活動停止、休校の状態になって、全く無人の寂しい状態に変わってしまった。

学童集団疎開に出発した時のことを思い出してみよう。それは昭和19年8月15日、暑い日の昼頃の事で、東京向島区の第一寺島小学校を出て、近くの市電に乗った。両親や多くの人々に見送られて、悲しい別れで、涙ながら、上野駅へ行った。疎開先は茨城県岩井町(現坂東市)である。

先ず上野駅から汽車で茨城県の水海道(現常総市)へ、そこから岩井町へ、約20km田舎道を砂埃をあげて、トラックの荷台に乗っていた。学童数は3年生から6年生の男女、約80人であった。引率の先生2人、6年の担任であった。疎開先は旅館と町の小さな集落で、そこへ20人と60人に別れて疎開した。

関東では、一般に疎開学童の受け入れ先は、茨城、群馬、福島、長野等で温泉旅館や寺院が多くあったようである。疎開地で使用する寝具一式と衣類は前もって袋に入れて、その上からゴザに包んで送られていた。

学童の生活の世話をする地元の人々が保母として面倒をみてくれた。食事は3食全て、旅館へ出かけて食べた。食料事情の悪化の時ではあったが、町の人々の援助により欠食はなかった。

また時々おやつとして、ふかしたさつま芋ももいた。食事は米の間に小さく切ったサツマイモやカボチャが混じっていた。勉強は旅館の中ではなく近くの小学校に隣接する女学校(旧制の女学校)の教室で、3年生と4年生が1組、5年生と6年生が1組の2組に分かれて受けた。

女学校の正面玄関のガラスの板に、金剛石も磨かずば、玉の光はそわざらんと刻まれていた。その金言は強い印象を残した。学童集団疎開は厳しい、辛い思い出が多くあった。両親のもとを離れて、集団で生活をする、戦時下で、食料事情の悪化と物資不足は厳しさに拾車をかけていた。当時の戦況の状態は学童には全く不明であった。

岩井町の上空をB29爆撃機がゆつくりと銀色に輝いて、東京方面に飛んで行くのが度々見られた、無性に腹立ちを感じた。

昭和19年8月15日に出発し、翌年20年3月5日に、中学校受験のため6年生全員がトラックの荷台に乗って、東京寺島へ帰ってきた。

受験希望の府立7中(現都立墨田川高)は厳しい受験校とされていたが、受験準備は不十分だったので不安が強かった。しかし、疎開から帰って、5日後の3月10日夜半、東京下町の上空襲で、向島、本所、浅草、下谷、荒川は完全に焼け、多くの人が焼死した。そして中学入学の生徒が激減し、全員、無試験で入学になった。

全員が犠牲になった。その悲報は大きなショックで、希望の中学入学の喜びも感動も全くなかった。3月8日には、疎開からの帰宅の報告に祖父の深川へ出かけたばかりだった。ショックの余り、6年生代表の答

## 北里研究所学会賞

受賞者特別講演会に出席して

野田 公俊 (東大院・昭58)

2014年1月29日、講演のため北里大学白金キャンパスにある北里研究所を訪問した。この日は北里柴三郎先生の生誕日である。

講演を行う前にキャンパス内の「コッホ・北里神社」に案内していただいた。この神社の前に立つと、二十数年前にお会いしたのとは異なる先生の名前を思い出す。

辞の依頼も断り、卒業式も欠席をした。それから半年後、昭和20年10月に学童集団疎開は終了した。戦争による悲惨なことは無い。

1908年(明治41年)6月、北里柴三郎先生の恩師ロベルト・コッホ先生ご夫妻が来日した。北里先生が招いたこのノーベル生理学・医学賞の受賞者に対して、国をあげての歓迎が行われた。北里先生は滞在中のこのコッホ先生ご夫妻の便宜を計るため、ご自身の門弟の中からドイツ語がとびきり上手く、立ち居振る舞いに品のある一人の青年を選んだ。

コッホ先生ご夫妻もこの青年がとても気に入って、帰国後に感謝のしるしにとカール・ツァイス社の油

浸レンズ付きの最新式顕微鏡を贈ったという。74日間の滞在はコッホ先生と北里先生にとって本当に特別な時間になった。しかし、コッホ先生は帰国してわずか2年後に帰らぬ人となる。享年67歳であった。

コッホ先生は滞在中に何度か散髪に出かけたという。その頭髪を北里先生が保存していた。コッホ先生の名誉ある世話役を務めた青年が北里先生に届けたのである。そして、これにコッホ夫人から送られて来た遺髪をあわせてご神体とし、北里先生が所長を務める国立伝染病研究所内にコッホ祠を建立した。その後、北里先生は国立伝染病研究所を離れて、北里研究所を設立する。このコッホ祠も様々な歴史を経て、現在は北里大学白金キャンパスで師弟がともに合祀されコッホ・北里神社として存続している。

コッホ先生が贈ったカール・ツァイス社の顕微鏡は今どこにあるのであろうか。コッホ先生の名誉ある世話役を務めた青年の御子孫が千葉県におられる。あの北里先生からの贈り物の所在を尋ねてみたい。



特別講演会でいただいた北里柴三郎博士肖像メダル

コッホ先生ご夫妻もこの青年がとても気に入って、帰国後に感謝のしるしにとカール・ツァイス社の油

### 山中寮OB会 (紫峯会) 徳久剛史教授次期学長就任祝賀会

小林 欣夫 (昭63)

千葉大学大学院医学研究  
院分化制御学教授の徳久剛  
史先生が次期千葉大学学長  
に就任することが決まり、  
山中寮OBによる祝賀会が  
平成25年12月17日に京成ホ  
テルミラマールにて開催さ  
れました。これまで多くの  
山中寮OBが教授となり活  
躍されてきましたが、千葉  
大学学長となるのは初めて  
で非常に名誉なことであり、  
急な参加依頼であったにも  
関わらず30名のOBが参  
集しました。谷口克元医学  
研究院長から開会の辞をい  
ただき、引き続き徳久教授  
よりお言葉をいただきました。  
その後、船橋市立医療  
センター病院事業管理者の  
鈴木一郎先生に乾杯のご発  
声をいただきました。

山中寮は昭和7年に山中  
湖村に開寮され、現在に至  
るまで学生の自治で運営さ  
れてきました。山中湖の診  
療所、富士山7合目救護所  
の運営、山中湖村や山梨県  
との折衝など、寮委員は学  
生の頃から社会人さながら  
の重責を担ってきました。  
このようなことが医師とな  
ってから非常に役立ち、O

Bはさまざまなところで活  
躍しています。祝賀会では  
徳久教授の学生の頃の武勇  
伝なども披露され、みな学  
生の頃に戻ったように昔話  
に花が咲き、非常に盛会と  
なりました。最後に西野卓

名誉教授より徳久教授に花  
東が贈呈され閉会となりま  
した。

山中寮は新しい寮になり  
ましたが、山中寮のある区  
画だけは創建当時の面影を  
残す鬱蒼とした林に囲まれ  
ており、まさに世界遺産の  
一部です。山中寮を訪れ、  
是非「逆さ富士」や「赤富  
士」との出会いを楽しんで  
ください。



写真右から  
前列：小林信義(平2)、青  
柳光生(昭49)、西島浩(昭  
44)、鈴木一郎(昭42)、徳  
久剛史(昭48)、谷口克(昭  
42)、西野卓(昭47)、出口  
不二夫(昭50)、セレスト・  
ラマ・ドーザー(昭51)  
第2列：尾崎尚人(医3年)、  
大浦弘高(平25)、青木康大  
(平18)、岡陽一(昭56)、小  
林欣夫(昭63)、滝沢史佳  
(昭57)、石橋巖(昭55)、小

林史朗(昭56)、中川宏治  
(昭59)、村上康二(昭61)、  
糸川直樹(医5年)、中村真  
人(昭54)  
第3列：古関明彦(昭61)、  
中川晃一(平2)、和久真一  
(昭57)、三浦正義(昭56)、  
露口利夫(昭59)、寒竹正人  
(昭63)、小松尚也(昭63)、  
小島広成(平3)、宮内秀行  
(平7)、高岡浩之(平14)、  
橋本理(平24)

### 千葉大学医学部産科婦人科学教室同窓会 学術奨励賞

産科婦人科学教室同窓会広報委員会

長田 久夫 (昭56)

一昨年より千葉大学医学  
部産科婦人科学教室同窓会  
では、教室の研究活動の更  
なる活性化を図るため同窓  
会学術奨励賞を創設し、該  
当年で最も際立った業績を  
上げた教室員に授与しその  
功績を讃えることとなった。  
第1回の受賞者は三橋暁先  
生(平2)、第2回の受賞者  
は加藤一喜先生(平5)と  
山本憲子先生(平16)で、  
産科婦人科同窓会総会にお  
いて表彰状と副賞が授与さ  
れた。3名の受賞者の受賞論  
文とその要旨を以下に示す。

三橋暁：「Daily low-dose  
cisplatin-based concurrent

chemoradiotherapy in  
uterine cervical cancer  
patients with emphasis on  
elderly patients: A phase  
II trial」シスプラチン併用  
放射線治療(CCRT)は、進  
行子宮頸癌の標準治療とな  
っている。シスプラチンを  
毎週40mg/m<sup>2</sup>併用する方法  
が一般的だが、70歳以上の  
高齢者は、多くの臨床試験  
から除外されており、高齢  
者に対する投与方法・安全性  
は確立していない。本試験  
は、子宮頸癌放射線治療に  
シスプラチンを毎日8mg/m<sup>2</sup>  
で併用する臨床第2相試  
験である。本試験で、70歳

以上の患者に対しても  
CCRTを安全に施行でき  
ること・70歳以上の患者に對  
して70歳未満の患者と同等  
の治療成績が得られること  
が確認された。

加藤一喜：「Assessment  
of intraoperative tube tho-  
racostomy after diaphrag-  
matic resection as part of  
debulking surgery for pri-  
mary advanced-stage Mül-  
lerian cancer」[Manage-  
ment of pancreatic fistulas  
after a splenectomy as  
part of cytoreductive sur-  
gery for ovarian cancer]  
[Bladder function after  
modified posterior exen-  
teration for primary gynec-  
ological cancer]いずれも

29a inhibits cancer cell  
migration and invasion via  
targeting HSP47 in cervi-  
cal squamous cell carcino-  
ma」機能性RNA (miRNA)  
が、癌の発生・進展・転移  
に重要な役割を担っている  
事が明らかとなった。

山本憲子：「Tumor sup-  
pressive microRNA-218  
inhibits cancer cell migra-  
tion and invasion by tar-  
geting focal adhesion path-  
ways in cervical squamous  
cell carcinoma」[Tumor-  
suppressive microRNA-

千葉大学産婦人科在籍中の  
4年間で、婦人科がん、  
特に進行卵巣がんに対する  
手術において、より確実で、  
より安全で、より合併症の  
少ない術式の構築を目指し  
た取り組みに関して、臨床  
データをまとめた研究であ  
る。

山本憲子：「Tumor sup-  
pressive microRNA-218  
inhibits cancer cell migra-  
tion and invasion by tar-  
geting focal adhesion path-  
ways in cervical squamous  
cell carcinoma」[Tumor-  
suppressive microRNA-

り子宮頸癌におけるmiR-  
218・miR-29aは癌抑制型  
microRNAとして作用する  
こと」またmiR-218・miR-  
29aが制御する分子ネット  
ワークの一端が明らかとな  
った。

全国的に産婦人科若手医  
師不足が騒がれている中、  
千葉大学が安定した入局者  
数を維持できているのは、  
産科婦人科同窓会が支援し  
ている諸事業によるところが  
大きい。この学術奨励賞  
が、さらに若手医師の研究  
に対するモチベーションを  
高め、研究面での起爆剤と  
なることが大いに期待され  
る。

# 勝山寮OB会

田邊 政裕 (昭49)

勝山寮は平成12年7月に当時の大蔵省関東財務局による使用状況調査によって利用度低下、老朽化などの理由から他施設との統合の必要があると判定され、平成14年3月頃(時期未確認)に老朽化のため解体撤去されました。その後、千葉大学医学部職員及び学生が研修・ゼミなど多目的に利用できる施設として勝山セミナーハウスが企画され、平成16年3月にその一部が竣工しました。当初の計画は1億円弱の予算で50名が収容できる研修ユニットと10名が宿泊できる宿泊ユニット5棟からなる研修施設でしたが、宿泊ユニット1棟ができただけで現在に至っています。

勝山寮再興は道半ばですが、勝山寮の記録を遺しておきたいということで青木謹先生(昭36)にお願いして、関係者(青木謹、田邊政裕(昭49)、五十嵐辰男(昭52)、廣島健三(昭54)、龍野一郎(昭57))で話し合い、寮委員名簿、寮委員の思い出プラス医学部100周年誌に掲載された元脳外

科教授牧野博安先生の勝山寮に関する文書からなる冊子の作成とOB会の開催を企画しました。

3月16日(日)午後1時30分から新設された新しいのはな同窓会館1階多目的ホールでOB会は開催されました。年度末の時期ということもあり19名のご参加でしたが、最長老の中野練一先生(昭29)ご夫妻も参加され、楽しく、懐かしい時



を過ごさせていただきました(写真)。会の終わりに次年度も同様のOB会を開催することが提案されました。詳細が決まりましたら、この同窓会誌でお知らせすることができると思います。今回参加できなかった皆さんも次回は是非ご参加ください。

写真右から  
前列：田中正(昭49)、三好弘文(昭40)、中野夫人、中野練一(昭29)、植田伸夫(昭34)、青木謹(昭36)、山本健介(昭44)、田邊政裕(昭49)  
後列：池田雄次(平4)、満

山大吉(昭63)、高野英行(昭61)、古谷雄三(昭61)、龍野一郎(昭57)、諸田英夫(昭55)、廣島健三(昭54)、

須藤義夫(昭55)、中世古知(昭63)、齋藤秀一(平元)、遠藤恒宏(平4)、高瀬一嘉(平4)、藤本谷子

## 雑文雑談

### 山田浅右衛門の事

石出 猛 史 (昭52)

「首斬浅右衛門」と通称され、江戸幕府の小伝馬町牢屋敷で、罪囚の斬首役を務めたことで知られている。しかし本来は「御様御用」という、御腰物奉行(定員2名 布衣 500石 役料3000俵)が預かる將軍家の刀剣(佩刀・献上刀等)で、刑死体を様斬りして、その利鈍を鑑定する役である。刀剣の鑑定は大名家等からの依頼もあって、その謝礼等のために裕福であったといわれている。幕臣ではなくて浪人である。

「首斬浅右衛門」と通称され、江戸幕府の小伝馬町牢屋敷で、罪囚の斬首役を務めたことで知られている。しかし本来は「御様御用」という、御腰物奉行(定員2名 布衣 500石 役料3000俵)が預かる將軍家の刀剣(佩刀・献上刀等)で、刑死体を様斬りして、その利鈍を鑑定する役である。刀剣の鑑定は大名家等からの依頼もあって、その謝礼等のために裕福であったといわれている。幕臣ではなくて浪人である。

りを勤めた。宝永年中(1704-1711)には、永井伊賀守、久世大和守(いずれも若年寄)の下屋敷で、また江戸城敷地内の吹上で、様斬りが行われたという。小伝馬町牢屋敷で様斬りが行われるようになったのは、享保5年(1720)からである。同6年7月、三代目山野吉左衛門が病氣により小普譜入(無役)したため、以後は安左衛門と浅右衛門の二人で御様御用を務めるようになった。

と断っている。山野氏は直参であったが、浅右衛門は浪人であったためであろう。旗本大谷木醇堂は、その著作集「醇堂叢稿」で、「浅右衛門は囚獄石出帯刀の傘下」と記しているが、無論帯刀の輩下ではない。しかし、少なくとも職務上は密接な関係にあった。浅右衛門は浪人ではあるが、町奉行の支配下にあった。

山田五三郎(七代目浅右衛門吉利)が、町奉行鳥居甲斐守に差出した、山田家『由緒』の記録がある。これによると初代浅右衛門は、前田丹後守(七日市藩々主 1万石)の元家来で浪人。戸田山城守(宇都宮藩々主 7万8千石)の家来倉持安左衛門と共に、御腰物奉行支配下で御様御用を務めていた山野勘十郎の、手代

御用は浅右衛門一人になり、さらに倅源蔵も御様御用を申し付けられ、山田家による御様御用の独占体制が確立した。

が、執行時大名等から鑑定を依頼された刀を用いることは、なかったと思われる。様斬りと違い、予想外の鈍刀であったために、折れたりと、斬り損なうと問題になったであろう。

文面からすると、五三郎が前年の天保13年(1842)に、「御様御用」を申し付けられたことに対する上納金で、300両が納められている。幕府からは上納金に対する褒美として、銀五枚が下されている。「御様御用」に関する冥加金上納について、これまでに触れた文献は見当たらないようである。

左衛門が病死すると、御様御用は浅右衛門一人になり、さらに倅源蔵も御様御用を申し付けられ、山田家による御様御用の独占体制が確立した。

「上納願」は、御腰物奉行の周旋で町奉行に差出されている。ここでわざわざ「浅右衛門は自分の支配下ではないが、職務上の関りから」

明治13年(1880)、明治政府による斬首刑禁止を見届けて、同17年(1884)に没した。享年72歳。吉利がその家督を、御様御用を勤めた3人の倅には譲らずに、後添の素伝との間にもうけた娘に相続させたことから、山田家のお家騒動がおこった。素伝は江戸城の大奥に仕えたが、女武者者として知られていた。晩年を千葉の佐原で送った。豊島区池袋にある山田家の菩提寺祥雲寺には、八世までの記念碑が建立されている。

追悼

巨星墜つ  
佐藤通先生を偲んで

貞永嘉久(昭35)



昭和31年(1956年)

4月春爛漫、千葉大学医学部医学専門課程の入学式で佐藤通先生(通称ツサンまたはトオルチャン)(以降佐藤君と記述させていただきます)に初めて出会いました。当時の医学部入学試験制度では高校を卒業し直接医学部を受験することはできません。2年間「医学進学課程」にて所定の単位を取得した資格で医学部受験をして入学、さらにインターン研修一年間を終えて、やっと医師国家試験に對する制度でした。我々「医学進学課程」昭和29年入学、「医学部医学専門課程」昭和31年入学は後のない暗黒の最終列車の乗客でした。

私たち入学者は大きく分けて3つのグループに分けられます。最初のグループ

は直接千葉大「医学進学課程」からのストレート入学者40名前後。次のグループは他の大学の医学進学課程からのストレート入学者私を含めて約7名。最後のグループは、長年浪々の身をやつした猛者の軍団約30数名と記憶しています。この猛者の集団の人々は私たちがより3〜4年以上も年長者が多く居て、私たちがさぞ幼く見えたのかどうか?このグループに佐藤君がいました。名簿順「さ」の関係上、基礎医学・解剖・その他実習と一緒にすることがありましたが、挨拶を交わす程度でした。

勉強も恙なく?進み3年生。臨床医学の講義を受けるに至り、早くも患者との直接診療行為に心は逸り、授業の合間をみつけて各地方の基幹病院にアルバイトを兼ねて多くの学生が向いました。この時、先輩から紹介されたのが熱海胃腸病院(現湯河原胃腸病院の前身)でした。この病院の

名称を目にしてなつかしく思われる先生方も多いと思います。この病院の創生期ともいうべき時期に同級の佐藤君(第二外科)と私、映夫君(第二外科)と私、三人のサムライが学3、学4、インターンの3年間、「学生の先生様」「インターンの先生様」として登場し、当時の医師不足を補充しました。外来診療、手術の助手、当直、往診(当時は特別手当一回につき400円。これはハイボール30円、駅前ソバ10〜15円の時代にとっても喜ばしく有難かったです)と若さにかまかせて縦横無尽に活躍しました。

外来では瘰癧の症例が多く一日に4〜5例、オーベールの麻酔、爪辺縁切開は毎日でした。そのうちいくつか排膿(Discharge)が残存する治癒遷延の患者が数人たまり、吉田充院長の外来で指摘され、いつも私たちの面倒を見てくださっていた依田勇二先生(第二外科・現湯河原胃腸病院理事長)が、大声でこっぴどく「君の指導が悪いからこんなことがおきるのだ」と叱られていたのを佐藤君が聞きつけて、「さあ大変だ、覚悟をきめておけ」とラクタの馬さん張りのギョロ目をむいて言う。そこへ依田先生

が来られて、院長からの叱責を我々にマイルドに伝言し、「君たちには井上裕著『小外科』を一週間以内に読破してから再びメスをもつてもらう」、これでこの件は落着きました。その後も依田先生には研修の場で教育を受け、学生の身分でありながら虫垂炎の指導も受けました。

千葉の看護学校からは看護師の卵さんたちが十数名研修にきて、若い笑い声にあふれました。梅雨の頃、風雨が続いた当直明けの夜半、伊豆山神社近くの元置屋の2階の寮で休んでいると、突然、当日当直勤務の佐藤君が私の部屋につかつかと入ってきて、「貞永おまえ男になれ」と言います。彼の言う意味がわからずぼかんとしていると、「ここが正念場だ」と再び怒号。よくよく聞き返してみると、看護師の卵さん達の宿泊している寮の雨漏りがひどく、病院の厚生施設の対策に不安を覚え、動揺しているとのこと。「この駄々っ広い部屋を含め、ここを彼女たちの宿泊の寮として一時的に空けてくれ!」、その一声ですぐに小荷物をまとめ、すぐごと病院の当直室(所謂屋形)に引越しました。以後往診職務以外にこの伊

豆山方面に戻った記憶はありません。「鶴の一声」なにせ片岡知恵蔵張りの大きい角ばった顔で佐藤君に説得(桐喝)されると、一も二もなくすぐごと尻尾を巻いて隅に引つ込むしかなく、とにかく迫力がありました。

熱海の夜は脂肪あふれる欲楽の街、若い私たち医学生(書生)にとって魅力あふれ、手元不如意でも、糸川べりの居酒屋へ3人で出かけた。又は先輩依田先生、辻輝蔵先生のお供で...。居酒屋はきわめて居心地がよく可愛い女給さんと談笑し、いつまでもいつまでもこの時間が過ぎなければいいと思ひ込むほどでした。

大勢とバッティングするころもありました。この「シロキ」のホステスが病院の患者で顔見知り、特に佐藤君の顔の広いこと!!私たちが隅でおとなしく飲んでいると、酔っぱらったホステスがドン、ドサツとビール6、7本私たちのテーブルの上に置くのですが、さあ懐の乏しい貧乏学生の先生様たち、急に落ち着かなくなり焦り始めていると、「大丈夫、ビールはこちら、お勘定はあちら(のテーブル)」と古き良き時代でした。

インターン終了後、国家試験をクリアした3人はあこがれの中山恒明主任教授の第二外科へ入局しました。佐久間君と私は大学院博士課程へ入学したため、佐藤君とは臨床、研究が少し異なる道を歩むことになりました。一方中山恒明教授の側近(御用人)であった佐藤君は、教授の紹介で田中角栄元首相の主治医を務め、湯河原胃腸病院の理事ついでに熱海市で開業、この間東京女子医大消化器病センターと湯河原胃腸病院の連携の軸となり、若きドクタ1たちの医術の教育のみならず、仁術の教育もされていたようです。

の活躍はすばらしく、唐沢祥人元日本医師会会長の初回選挙のときは全国(北は北海道、青森から南は鹿児島から沖縄まで各都道府県医師会の幹部を説得し、反応を見て票読みを1票まで読みきり、見事当選に御努力したことは皆周知のことです。

約一年半前ぐらいに、私が週一回お手伝いさせていただいている西台クリニック(PET・CT画像診断)後輩の済陽高穂院長から「同級生の佐藤通先生が胆石の手術を(今泉俊秀教授・元東海大外科教授)受けられたようです。」と報告がありました。思えば臍臓の手術と気づかなかつたのは不覚でありました。約8ヶ月ぐらい前に電話を掛けたとき、いつもより弱々しかった佐藤君の声、今思えば気づくべきでした。

11月24日に野辺の送りを最後まで立ち会わせていただきました。やさしい顔で目を閉じられていました。坂本竜馬の如く一生を駆け抜けた佐藤君、どうぞ心安らかにゆつくりお休みください。

君を送るべき今日は  
桜満開春爛漫 合掌  
平成二十六年春四月

# みのほな同窓会支援

## 白衣式に添いで診る

### ひとひの光明

— 亥鼻に根付く志と共に歩むみのほな同窓会の役割 —

みのほな同窓会副会長

鈴木信夫 (昭47)

平成26年2月2日(日)、薬学部120周年記念講堂において開催の第4回白衣式に、済陽高穂副会長と共に出席し、祝辞にてみのほな同窓会の活動を紹介しました。

重要性が指摘されます。そこで、すでに施行していた学生図書の新規購入や東日本医科学生総合体育大会活動、および亥鼻祭開催などでの支援に加えての革新が重要となります。

白衣式は、田邊政裕名誉教授ら多くの方々のご努力により創設された医学教育改革の一つです。臨床現場で医学者が修学するにあたり、千葉大学医学部の魂を記した白衣を授ける厳かな儀式です。このような白衣式を含め、医学部の諸事業に列席することが、みのほな同窓会における役職者の役目となっております。あくまでも、医学部の日程に合わせるため、役職者自身の日常を取り消しての勤めでもあります。

具体例としては、渡辺武前会長のご努力もあり成立したみのほな同窓会への医学部の会員化、あるいは医学部における医学士学位授与式への列席および祝辞などがあげられます。このように、亥鼻で修練する医学生のみならず、大学院生や研究生、さらには教官各位を含めた人々にどのように寄り添うかは、みのほな同窓会活動の大きな課題です。では、白衣式当日、会場後方にて学生のご父兄も参列している中、伝達した祝意の主旨を次に記し、脱稿とします。

実は、みのほな同窓会活動の活性化を具現するためには、将来同窓会会員となる医学生と共に歩むことの

「みのほな同窓会は、同窓生の絆を深めるのみならず、

医道の昂揚に努めます。そのためにも、医学生の皆様さんには、入学時より学生会員となつていただき、卒業後の準備をしていただいております。なお、この白衣式をはじめ、種々の点で、千葉大学医学部の発展に寄与するようにみのほな同窓会は努力しております。

とも理解していただきながら、白衣式をひとつの契機として、より一層勉学に励んでください。」



白衣式出席者 (医学部本館正面玄関前にて)

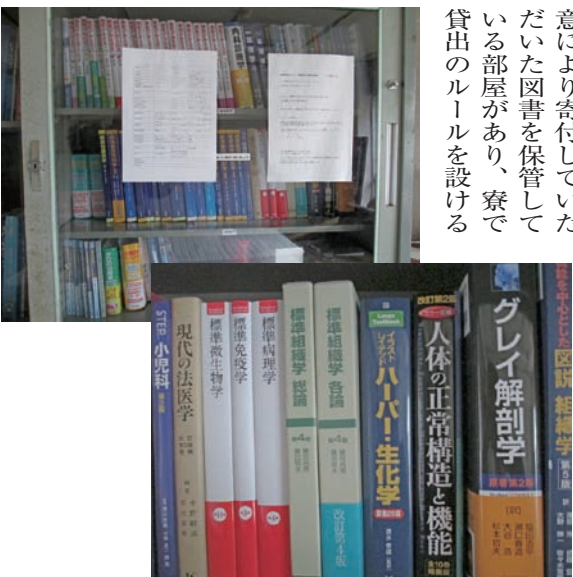
## 雄翔寮図書

医学部3年 図書係 井田友明

この度は私たち雄翔寮の学生のために支援として教科書を寄付していただき、ありがとうございます。寮生一同、とても感謝しております。寮を選択して住んでいる私たちにとって医学書は非常に高価なものであり、一冊すらも気軽に買えるようなものではありません。そのためこのような寄付はありがたく、いつも勉強の助けとなっております。今回寄付していただいた教科書は写真のものとなります。雄翔寮には毎年ご厚意により寄付していただいた図書を保管している部屋があり、寮で貸出のルールを設ける

など、しっかりとした管理のもとで皆が平等に使えるように心がけています。今回いただいた図書も大切に、そして大いに活用させていただきます。

毎年図書を寄付していただくたびに、そのご厚意に応えるためにも、私たち寮生はいっそう勉学に励み立派な医療者にならなければならぬと思わされます。いただいた本と共にこれからも努力していきますので、来年度もどうぞよろしくお願いたします。



まだないくすりを  
創るしごと。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。



## 平成26年卒業生の卒業研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒業研修プログラムとして、5種類（総合重点、専門重点、学究重点、産婦人科、小児科）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（総合重点プログラム）、1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（専門重点プログラム）、1年目・2年目共に大学病院で研修する方式（学究重点プログラム）、その他である。

さらに、2年間の卒業臨床研修修了後は、卒業臨床研修と連携した各診療科のシニアレジデント（後期研修）プログラムにより、専門医取得を目標とした研修をシームレスに受けることができる。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大学医学部附属病院I	国立病院機構千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	国立病院機構災害医療センター	国立病院機構災害医療センター	国立病院機構災害医療センター	1
千葉大学医学部附属病院I	千葉労災病院	千葉大学医学部附属病院	1	国立病院機構東京医療センター【一般】	国立病院機構東京医療センター		1
千葉大学医学部附属病院I	千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	2	国立病院機構東京医療センター【外科系】	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1
千葉大学医学部附属病院I	社会保険庁船橋中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	東京通進病院	東京通進病院	東京通進病院	1
千葉大学医学部附属病院I	千葉メディカルセンター	千葉大学医学部附属病院	1	聖路加国際病院内科系	聖路加国際病院	聖路加国際病院	1
千葉大学医学部附属病院I	千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	1	聖路加国際病院小児科系	聖路加国際病院	聖路加国際病院	1
千葉大学医学部附属病院I	千葉大学医学部附属病院		4	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院		1
千葉大学医学部附属病院II	君津中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	1
千葉大学医学部附属病院II	市川まぐろ東京ベイ医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	虎の門病院内科系プログラム2	虎の門病院	虎の門病院	1
千葉大学医学部附属病院II	小田原市立病院	千葉大学医学部附属病院	1	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	2
千葉大学医学部附属病院II	千葉大学医学部附属病院		1	横浜労災病院	横浜労災病院		2
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	4	河北総合病院	河北総合病院	河北総合病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	7	石巻赤十字病院	石巻赤十字病院	石巻赤十字病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター		2	南相馬市立総合病院	南相馬市立総合病院	南相馬市立総合病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	4	国立国際医療研究センター病院内科系	国立国際医療研究センター		2
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院		1	北里大学研究所病院	北里大学北里研究所病院	北里大学北里研究所病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	4	東京都保健医療公社大久保病院	東京都保健医療公社大久保病院	東京都保健医療公社大久保病院	1
君津中央病院群2	君津中央病院		4	公立昭和病院	公立昭和病院	公立昭和病院	1
君津中央病院群2	君津中央病院	君津中央病院	3	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	1
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	1	JR東京総合病院	JR東京総合病院		1
千葉県立病院群	千葉県がんセンター		1	東京厚生年金病院	東京厚生年金病院	東京厚生年金病院	1
千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	2	三井記念病院B	三井記念病院	三井記念病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	国保旭中央病院	3	NTT東日本関東病院B	NTT東日本関東病院		1
千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	3	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	横浜市立みなと赤十字病院	1
国府台病院	国立国際医療研究センター国府台病院		1	東大和病院	東大和病院	東大和病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院		1	佐渡島臨床研修病院群	佐渡総合病院	佐渡総合病院	1
国保松戸市立病院	国保松戸市立病院	国保松戸市立病院	1	社会保険中京病院	社会保険中京病院	社会保険中京病院	1
日本赤十字社医療センター-外科	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1	大阪府済生会中津病院	大阪府済生会中津病院	大阪府済生会中津病院	1
日本赤十字社医療センター-内科	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1	大阪赤十字病院	大阪赤十字病院		1
日本赤十字社医療センター-産婦人科	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1	神戸赤十字病院	神戸赤十字病院	神戸赤十字病院	1

# 課外活動団体だより

## 剣道部

主宰 医学部4年 吉村 悟志

千葉大学医学部剣道部主将医学部新四年の吉村悟志です。この場をお借りして部活動の紹介をさせて頂けることをとても嬉しく思います。

現在、剣道部は男子4名、女子4名で週三日(火・木・18時〜20時、土・10時〜12時)、日々の稽古に励んでいます。8名のうち、5名は三段以上取得の経験者、3名は大学から始めた初心者と様々な技術のレベルの部員がいます。人数は8名と小規模な部活ではありますが、「各々が課題を持ち、主体的に稽古をする」という目標の下、皆が高い意識を持って毎回の練習に取り組んでいます。

その成果は大会の結果にも現れており、前年度の東日本医科学生剣道大会男子団体戦において予選リーグを一位で通過し(ベスト16)、関東医歯薬獣医科大学男子団体においては三位に入賞することができました。前々年度の医歯薬獣大会で

うのが剣道部の良いところだと思えます。

また、剣道部は歴史が古く、様々なところにつながりがあります。稽古には、OB・OGにとどまらず大学院生、県庁の方、剣道連盟の方、患者さんまでも顔を出して下さることがあります。新入生歓迎会、卒業生送別会には例年多くのOB・OGの方々が顔を出してくださいます。OB・OGの方々からは剣道の技術にとどまらない様々なアドバイスを頂くことができ

ます。剣道部を運営できるのもOB・OGの方々の支援があつてこそだと実感する次第です。この場を借りて御礼申し上げます。

新入生の方が入部してくださることは勿論、近所で稽古する場がほしいという方も年代を問わず剣道部に足を運んでくだされば幸いです。稚拙な文章ではありますが、これで剣道部の紹介を終わらせていただきます。最後までお読み頂きありがとうございます。

剣道部は、部員の仲が良く、剣道の技術に関しては上下の別無くお互いに意見を交換できるという自由な雰囲気があります。先輩が後輩にアドバイスすることは勿論のこと、先輩が後輩に意見を求めるという場面も多く、各々が個性を活かしながら技術を磨いています。普段は個人個人が意識を高く稽古に取り組み、試合といった何か一つの目標に向かうときには皆がしっかりと団結している、とい



## ACLS研究会

31期代表 医学部4年 小野 亮平

ACLSとは何かご存知でしょうか。医療従事者の方ならまだしも、一般の方への知名度は低いかと思えます。ACLSはAdvanced Cardiovascular Life Supportの略で、日本語では二次救命処置と訳されます。ACLSでは、気管挿管、薬剤投与といった高度な心肺蘇生法や、重症不整脈、急性冠症候群、急性虚脱、急性脳卒中の初期治療などを学びます。モニターと連動して心電図や呼吸音などを再現できるレサシアン(人形)を用いて、実際の患者さんをシミュレーションしながら、現場で起きそうなケースについて学習します。

千葉大学ACLSサークルは2006年度よりサークル認定を受け、現在春と秋にそれぞれ4ヵ月間程度活動を行っています。各時期毎に希望者10名を医学部3〜6年生から募集して、受講者が10名、指導者が10名の計20名で勉強会を行っています。受講した10名は、次期に指導者側に回り、新たな受講生10名に指導を行うという形で受け継がれて

疑問を学生間で極力解決する事を意図してのこともあります。

医療者として、救急の現場に遭遇することはいつあってもおかしくはなく、その際の対応次第で患者さんの予後を左右し得ます。医学生のうちから救急の初期対応をきちんと学んでおくことは最低限必要であるといえ、それはどの診療科に進むにしても将来必ず身に付けておかなければならないスキルのひとつです。実際に活動していて感じる事は、



頭で理解しているのと実際に体が動くのは全く別だということ。胸骨圧迫1つをとっても、もし自分の目の前で人が倒れた時にきちんとした胸骨圧迫を行えるかという、常日頃から鍛錬を積んでいなければできないことではないでしょうか。そういった普段自分1人ではなかなかできない活動を私達は行っています。

今後の展望として、一般市民への啓蒙的講演会を開催し、BLS(一次救命処

## 亥鼻バンドサークル

主務 医学部3年 高橋 周平

亥鼻キャンパスに存在する活動団体は部活動が多く割合を占めていますが、僕たち亥鼻バンドサークルは数少ないサークルという形式で活動を行っています。大会という目標のある運動部などに比べバンドサークルの活動はあまりイメージしにくいものかと思いますが、まずはこの場をお借りし、僕たちが日頃どういった活動をしているのかをお伝えすることができればと思います。

練習は平日12時~17時30分に解放される部室を個人またはバンドで予約・利用

置)の普及に努めていければと考えています。現在私達のサークルでは毎年11月に開催される亥鼻祭でBLS講習会を行っているのみですが、もつと一般の方々にも周知を図りつつその中で自分達も学べれば、より活動の幅が広がるかと思えます。末筆ながら、千葉大学OB・OGの方々、先生方には活動を温かく見守って頂き、今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。

して行っていますので、活動単位は基本的にバンド単位となっています。そのため非常に自由度の高い活動ができるのが当サークル最大のポイントなのです。もちろんサークル全体としても活動しており、楽器の練習会やおよそ2ヶ月毎に行われるライブイベントなどがあるほか、近年では多くの外部イベントにも参加または招待していただけるようになりました。こうしたイベントの中には千葉大学を含め3大学が集まる比較的小規模なものから約10数大学が集まり2日間にわた

たって行われる大規模なもの、運動部の東医体にあたる東医音など様々なものがあり、近年ますます団体としての活動が充実してきています。

さて、ここまで僕らの活動についてご紹介させていただきましたが、亥鼻祭にたいだきましたが、亥鼻祭についてもお話させて頂こうと思います。例年亥鼻祭にて屋台広場中央のステージをお借りしてバンド演奏の時間を設けて頂いています。毎年この亥鼻祭ステージに憧れてサークルに入る新入生が多く、活動員にとって大変気合いの入るビッグイベントであります。きつと亥鼻卒業生や地域の方々もご覧になったことがあるかと思えます。しかしこうしたイベントに出演させていただいている背景には多くの理解と協力があることを忘れてはいけません。騒音に関する説明と承諾を得る為に周辺地域への挨拶を行って頂いた亥鼻祭実行委員の方々、騒音に関してご理解を示してくださった地域住民の方々、さらには演奏を聴いてくださった方々など、僕らの活動は多くの方々を支えられているのです。僕は高校の頃からバンド活動を行ってきましたが、お恥ずかしい話ながら最近になるまでこうしたことに気が付くことができませんでした。

現在では活動者数40人程の規模にまで発展した当サークルですが実は設立されたのは近年の事で、設立当初は数人が活動していた程度でした。ここまで来るまでの間にどれほどの方々の支えがあったかわかりませんが、サークルの代表として今後、そうした全ての方々へ感謝の気持ちをお伝えしていければと思います。演奏者と鑑賞者が一体となれる音楽を目指してこれからも精一杯活動していきます。今後とも是非、よろしくお願ひ致します。



## 夢をカタチに

論文や自費出版に千葉日報を活用しよう！

るのな同窓会会員の皆様へ

千葉日報社コミュニケーション局では、出版物の企画から制作、販売まで手掛けております。論文や記念誌、会報などの印刷物から、特殊印刷、デジタルコンテンツまで、新聞社のノウハウと機能をフル活用してみたいかがでしょうか。お見積もりは無料です。お気軽にご相談ください。

千葉日報社コミュニケーション局企画事業部

〒260-0013 千葉市中央区中央4-14-10

TEL 043-227-0066 FAX 043-222-3040E-mail sp@chibanippo.co.jp



千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター

# 千葉県 Dr.BANK ドクターバンク

## 医師無料職業紹介

千葉県ドクターバンクでは、県内医療機関で働いていただける医師の皆さまの登録を受け、求人登録している医療機関に関する情報提供や紹介等、就業に関する支援を行います。

出産、育児等でしばらく就業していなかった女性医師や、一度退職され再び職場復帰を考えている医師の方も、是非ご利用ください。

詳細はWEBで!

千葉 ドクターバンク で 検索

URL: <https://www.chiba-dr-bank.org/>



# 千葉の医療を支える一人に!



千葉県PRマスコットキャラクター テーパくん

千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター

# 千葉県 Silver Dr.BANK シルバードクターバンク

## 定年退職者等のための医師無料職業紹介

千葉県シルバードクターバンクは、定年退職された医師や高齢の医師の皆さまに対して、高齢であってもその知識技能を発揮できる就業が可能な医療機関の情報提供や紹介など、就業に関する支援を行っています。ベテラン医師としての経験をいかして千葉県で働いてみませんか? ご登録をお待ちしています。

詳細はWEBで!

千葉 シルバードクターバンク で 検索

URL: <https://www.chiba-sildr-bank.org/>



NPO法人 千葉医師研修支援ネットワーク Chiba Doctors' Career Support Network

〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号 千葉大学医学部附属病院 教育研修棟2階 TEL: 043-222-2005 FAX: 043-222-2733

【厚生労働省 無料職業紹介事業許可番号 12-4-300012】 E-mail: [office@dcs-net.org](mailto:office@dcs-net.org)

千葉県許諾第A305-6号

# オンライン会報案内

http://www.inohana.jp/online/index.html



今回は、2013年10月以降に新しく配信されたものをいくつか紹介します。配信中の「同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介」については、千葉日報紙上で「頼りになります街のお医者さん」と連動させております。

## オンライン会報 総合目次

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。  
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。  
>>ダウンロード >>インストール方法  
ただし「\*Mac/スマホ対応\*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

- ・病院紹介
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・求人・求職
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・話題
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・キャンパス便り
- ・協賛企業からのお知らせ

## 生涯学習講座



**NEW**  
**糖尿病の病態と治療 Up To Date**  
 ・病因の推考 ▶ 映像を見る  
 ・予防治療への対応 ▶ 映像を見る  
 ・最新の治療法 ▶ 映像を見る  
 横手幸太郎（千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学 教授）  
 平成26年度栃木県みのはな会総会（2014.1.26開催）における特別講演  
 [2014.3.31掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



**NEW**  
**生物としてのウイルス、無生物としてのウイルス**  
 白澤 浩（千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学 教授）  
 第7回ちばBasic & Clinical Research Conference（2014年2月1日開催）における講演  
 [2014.3.31掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



**NEW**  
**「個人的な体験」から医師のキャリア形成を考える**  
 田邊政裕（千葉大学教授）  
 \*田邊政裕教授最終講義  
 [2014.3.17掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



**NEW**  
**新しいペプチドホルモンを探し求めて**  
 -Passion lives here-  
 木村定雄（千葉大学教授）  
 \*木村定雄教授最終講義  
 [2014.3.7掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



中野内科クリニックのスタッフ。左から3人目が中野義澄院長

千葉市緑区あすみが丘での開業以来、内科一般診療を行う一方、神経内科専門医として神経難病を中心とする患者の在宅診療にも従事し、地域医療に貢献してきた。在宅診療では胃ろうや人工呼吸器の管理など寝たきりの方にも対応。千葉大学神経内科、国立病院機構千葉東病院での診療、在宅医療の経験を生かしている。

医療、介護が必要な方の在宅生活を支えるために、クリニックのほかに通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護の経験を生かしている。

◆中野義澄プロフィール 千葉大学医学部卒。千葉大学第一内科神経研究室を経て、1978年10月千葉大学神経内科開設に参加。文部教官助手として平山恵造教授の下で診療・研究に従事する。84年国立療養所千葉東病院に院長として神経内科を開設後、90年千葉市緑区あすみが丘に開業。現在千葉市教育委員会教育委員を務める。

◆診療案内▽診療科目 内科、神経内科、リハビリテーション科  
 ▽診療時間 9～12時、15～17時30分（土曜日は14～16時）▽休診日 木・日・祝祭日▽住所 千葉市緑区あすみが丘7-2-13（外房線土気駅から徒歩20分）▽電話 043（294）9100

**医療法人社団豊心会**  
**中野内科クリニック**

## 神経難病患者を在宅診療



地域病院 医院紹介

話題



救命・救急活動の向上をめざして  
 千葉市を日本のシアトルに！  
 中村真人（中村医院 院長／千葉  
 市医師会 理事）  
 千葉大学医学部後援会平成25年度  
 総会における講演  
 （平成25年6月22日）  
 [2013.11.11 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



開業医向け電子カルテの最新情報  
 伊藤賢司（南光台伊藤クリニック  
 院長）  
 [2013.11.11 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*

診療所の紹介



診療業務改革は、電子カルテの導  
 入で促進！！  
 みうらクリニック  
 理事長 三浦正義  
 [2013.12.24 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



信頼される地域のかかりつけ医  
 やまだこどもクリニック  
 院長 山田慎一  
 [2013.12.24 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



・プライマリ・ケアを基盤とした  
 小児地域医療をめざして  
 ▶映像を見る  
 ・提言 一次治療を基盤とした  
 地域小児医療の構築  
 ▶映像を見る  
 外房こどもクリニック  
 院長 黒木春郎  
 [2013.12.04 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



・地域医療を実践する場  
 ▶映像を見る  
 ・提言 「都市型在宅医療」に  
 ついての1考察  
 ▶映像を見る  
 どうたれ内科診療所  
 院長 堂垂伸治  
 [2013.12.04 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



その人らしい生活と人生をささえ  
 て、はや13年  
 クリニックふれあい早稲田  
 院長 大場敏明  
 [2013.10.28 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



・何でもできる地域の家庭医  
 ▶映像を見る  
 ・提言 待合室から医療を変えよ  
 う  
 ～待合室も貴重な医療資源～  
 ▶映像を見る  
 稲毛サティクリニック  
 理事長 河内文雄  
 [2013.10.28 掲載]  
 \*Mac/スマホ対応\*



外房こどもクリニックの待合室の様子



外房こどもクリ  
 ニックの黒木春郎院  
 長  
 「検査で異常は  
 ない」「自然に  
 治るから様子を  
 見よう」と駆け  
 くある疾患で、  
 千葉大学医学部卒業後、同大医学  
 部付属病院小児科医局に所属。関  
 連病院勤務を経て同クリニックを  
 開業。千葉大学医学部臨床教授。  
 日本外来小児科学会理事、日本小  
 児東洋医学学会評議員などを務め  
 る。

小児のプライマリケアを使命  
 として、2005年にいすみ市に  
 開設された。重症疾患、緊急を要  
 する疾患に対する適切な初期診療  
 はもとより、日常的な疾患の診療  
 にも丁寧に対応。「子どもと家族  
 のためのクリニック」を標榜する。  
 例えば、感冒、夜泣き、便秘、  
 疲れやすいな  
 ど、子どもによ  
 る断的活動も大きな特徴となってい  
 る。

医療法人社団嗣業の会  
 外房こどもクリニック

込んだ先の医療機関で言われた経  
 験を持つ保護者は多いはず。黒木  
 春郎院長は「ささいなことでも子  
 どもの生活に大きな支障になった  
 り、問題が隠れていることがある」  
 と話す。また、最近では「落ち着きがな  
 い」などの発達上の悩みや心配が  
 急増。専門医との連携、臨床心理  
 士による評価・助言、近隣の療育  
 施設・教育機関・行政との連携を  
 通じ子どもや家族を支援。領域横

発達上の悩みも対応・支援



地域病院  
 医院紹介

◆診療案内▽診療科 小児科▽  
 受付時間 午前8時40分～11時40  
 分、午後2時40分～4時40分（乳  
 児健診・予防接種は午後2時～3  
 時）▽休日 日曜・祝日▽住所  
 いすみ市岬町和泉1880-4  
 （外房線・上総一ノ宮駅からタク  
 シー）▽0470(80)26626。

# 新るのはな同窓会館完成記念式典

千葉大学医学部創立135周年記念事業会長

おののはな同窓会長 伊藤晴夫(昭39)



道が出来て会館まで歩くことが出来ました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

新るのはな同窓会館完成記念式典は平成26年2月9日(日)に新会館多目的ホールにて開催されました。前日の歴史的な大雪で足止めを受けた方が続出でしたが、徒歩・タクシーなどで参集頂いた方々により盛会となりました。当日は快晴でしたが、医学部構内も積雪が多く、医学部職員の方々の雪かきにより一筋の



松木明知先生の記念講演

りました。施工にあたった山内工業株式会社、設計監理にあたった千葉大学工学部建築学科、栗生明・鈴木弘樹研究室への感謝贈呈に続き、テープカットを来賓、主催者10名により行いました。済陽高穂同窓会副会長の辞により閉式と

式典は、田邊政裕教授(建物・設備等整備委員会)の司会により、大井利夫同窓会副会長の開式の辞に始まり、伊藤と横須賀収医学研究院長の式辞に続き、来賓のご挨拶を徳久剛史千葉大学理事・次期学長と三浦正義医学部後援会長から賜りました。次いで、来賓の嶋津格千葉大学理事、荒野泰葉学研究院長、宮崎美砂子看護学研究科長、森進施設環境部長のご紹介が

なりました。記念講演は「箴言『獅胆』の日本への鷹目行以女手」の

伝播とその漢訳者」と題して日本医史学会理事(弘前大学麻酔科名誉教授)の松木明知先生により行われました。本学に関係の深い箴言についての長年のご研究はまことに素晴らしく、一同多大な感銘を受けました。

続いて、鈴木弘樹先生より建物概要説明を頂きました。細部にまで気を配った建物であることが良く理解されました。内覧会では、多目的ホールの他、会議室、事務室、畳敷きの大広間などが案内されました。祝賀



祝 新るのはな同窓会館完成記念式典



横須賀収先生

建設途中、何度も見学、視察致しましたが、膨大な鉄骨とコンクリートの厚さには吃驚致しました。これなら大地震が来ても大丈夫と思います。なお、新会館



徳久剛史先生

会は、大井副会長の乾杯のご発声が始まり、和気あいあいの内に終了致しました。新同窓会館の建設は前会長の渡辺武先生の発案で始まり、学生からの、旧会館の老朽化により使用不能となった合宿施設等新設の要望を受けてのことです。事業開始は、丁度リーマンショック後の経済状況が最悪の時でした。そして、いざ着工の時には大震災後の復興需要の為に、資材・人件費が急騰してしまいました。このような困難な時期にも拘らず、皆様方のご支援・ご協力によりどうか完成に漕ぎ着けることができました。



三浦正義先生

希望しております。これまでの皆様方のご支援・ご協力に感謝申し上げます。ご報告、ご挨拶といたします。有難うございました。

建設は医学部創立135周年記念事業の一環としてでありました。他の2つの柱は135周年記念誌の発行および千葉大学医学部の理念の言語化でした。この2つは瀧口正樹教授と田邊政裕教授などのご尽力により既に完了しております。50年以上前の医学部創立85周年記念誌を見ましても若者の同窓会離れが心配されておられ、いつの時代でも繰り返す課題のようですが、学生に愛校心を持つて貰う為にも懇親の場は重要と思われまします。学生からも新同窓会館完成は本当に嬉しいと云う有難い意見を貰っております。薬学部、看護学部等の方々も含め、学生・同窓・教職員の各種の集まり、研究会などに活用頂ければ幸いです。これを機にますます千葉大学に親睦の輪が広がり、困難な時代に力強く対処してゆくことを希望しております。

### 新みのはな同窓会館設立事業について

建物・設備等整備委員会委員長

田邊 政 裕



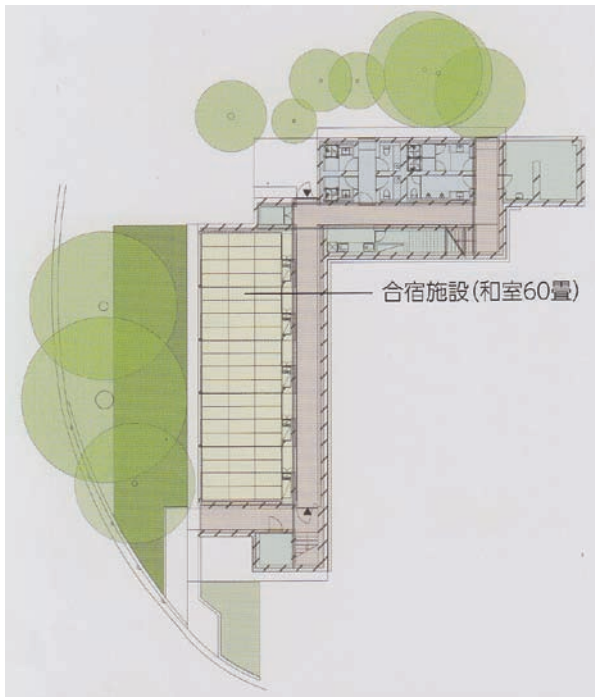
新みのはな同窓会館は2013年1月から工事がスタートし、一年以上の歳月を経て2014年2月9日(日)に完成記念式典が同会館で開催されました。当日は100名以上の参加が予

定されていましたが、前日の大雪のため参加が困難となられた方も多数おられました。完成記念式典、記念講演会、建物概要説明、内覧会、祝賀会がスケジュール(表)に沿って実施されました。弘前大学名誉教授松木明知先生は、本学外科学の祖とされる三輪徳寛先生が外科医育成のための箴言とした「獅膽鷹目行以女手」の来歴について講演されました。現在、千葉大学医学部のロゴマークとなっている「獅膽鷹目行以女手」についての長年にわたる詳細な調査記録であり、極めて感銘深い内容でした。会館完成に至るまでの長きにわたる皆様のご支援、ご協力に心から感謝いたします。4月より同窓会員、学生などに利用されており和やかに歓談する声が会館に響いております。御利用の詳細については新みのはな同窓会事務局にお問合せ下さい。

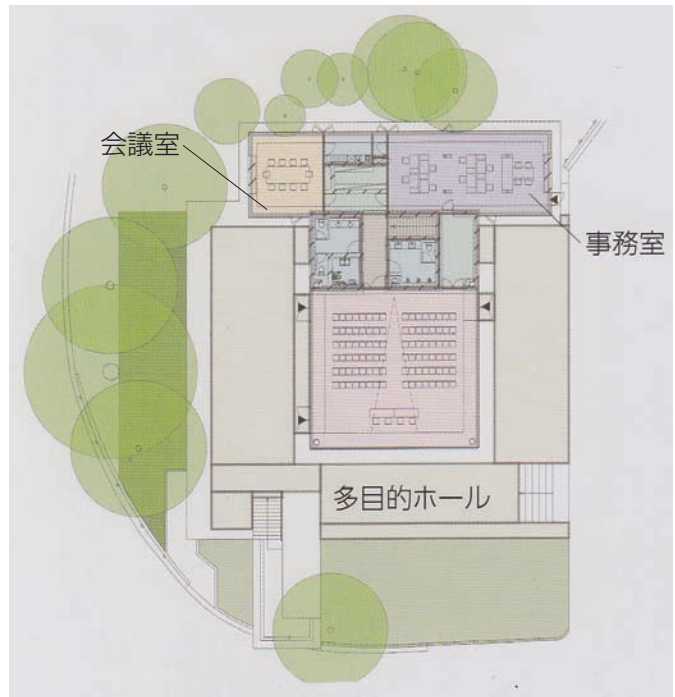
新みのはな同窓会館完成記念式典 式次第 (午後1時30分~2時40分)		
開式の辞	大井 利夫	みのはな同窓会副会長
式辞	伊藤 晴夫	千葉大学医学部創立135記念事業会長 みのはな同窓会長
	横須賀 収	千葉大学大学院医学研究院長
来賓ご挨拶	齋藤 康	千葉大学長
	(代理)	
	徳久 剛史	千葉大学理事
	三浦 正義	千葉大学医学部後援会長
来賓ご紹介		
感謝状贈呈	山内工業株式会社 代表取締役 山内一信 様	千葉大学工学部建築学科 栗生明・鈴木弘樹研究室
テープカット		
閉式の辞	済陽高穂	みのはな同窓会副会長
記念講演会	(午後2時45分~3時30分)	
	・箴言「獅膽鷹目行以女手」の日本への伝播とその漢訳者	
	松木 明知 先生	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学名誉教授 日本医史学会理事
	座長: 伊藤 晴夫	千葉大学医学部創立135周年記念事業会長 みのはな同窓会長
建物概要説明	(午後3時30分~3時40分)	
内覧会	(午後3時40分~3時55分)	
祝賀会	(午後4時00~午後5時15分)	

## 新みのはな同窓会館平面図

1階



2階



### 建物概要

所在地: 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号  
 構造: 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造  
 建築面積: 544.56㎡  
 延床面積: 656.24㎡  
 設計監理: 千葉大学建築学科 栗生明・鈴木弘樹研究室  
 施工: 山内工業株式会社  
 工事期間: 平成25年1月~平成26年1月





会議室

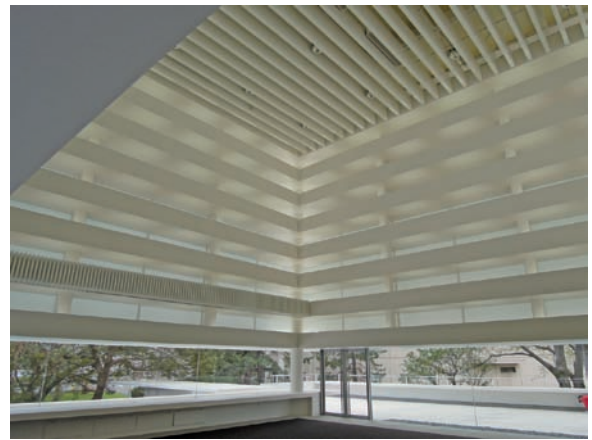


会議室



全景

## 写真でみる 新みのはな同窓会館



多目的ホール



合宿施設



多目的ホール

(平成26年3月31日現在)

# 新みのはな同窓会館寄附者ご芳名



## 高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

### 企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

### 企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル  
鳥居薬品(株)

### 医学部後援会

医学部後援会

## 同窓会員

矢野浩二郎(平11)

100万円以上ご寄附

### 医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

〒川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニック

### 企業・法人等

アステラス製薬(株)

キッコーマン(株)

小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)  
武田薬品工業(株)  
田辺三菱製薬(株)  
中外製薬(株)  
(株) ツムラ

千葉大学医学部附属病院  
臨床医学研究助成会

ファイザー(株)

小埜 清

小埜 清

### 医学部後援会

小埜 清

### 同窓会員

土屋 與之(昭24)

羽生富士夫(昭29)

谷嶋 俊雄(昭34)

谷嶋 つね(昭35)

加藤 昌義(昭36)

## 寄附者ご芳名

(敬称略)

### 一般個人

片野 鈴枝  
加藤 良二  
久保田勲也  
稲瀬 道和  
進藤 輝山

### 医療機関

旭神経内科病院  
国保旭中央病院  
(医) 井上記念病院  
(医) 大平会嶺井第一病院  
(医) かすみクリニック  
上都賀総合病院  
〒川鉄千葉病院

北千葉整形外科  
(医) 木下産婦人科医院  
埼玉厚生連 熊谷総合病院  
(医) 社団よつ葉会介護老人保健施設 さかき光陽  
(医) 三愛記念病院  
(医) 三愛記念そが病院  
下都賀総合病院  
(医) 志方記念三木クリニック  
鈴木医院  
(医) 社団明生会東葉クリニック  
(医) 耳鼻咽喉科なかのクリニック  
聖隷佐倉市民病院  
聖隷浜松病院  
聖隷横浜病院  
千葉中央メディカルセンター  
(医) 徳風会高根病院  
(医) 船橋クリニック  
(医) 船橋整形外科病院

### 企業・法人等

(医) 習志野第一病院  
(医) 三橋病院  
(医) みはま病院  
S M B C 日興証券(株)  
赤星工業(株)  
旭化成ファーマ(株)  
あすか製薬(株)  
アステラス製薬(株)  
アストラゼネカ(株)  
アルフレッサファーマ(株)  
石井食品(株)  
(株) 石渡商事  
岩瀬薬品(株)  
(株) ウチダ和漢薬  
栄研化学(株)  
エスエス製薬(株)  
(株) エスアールエル

イーザイ(株)  
エース損害保険(株)  
エルメッドイーザイ(株)  
大塚製薬(株)  
(株) 大塚製薬工場  
小野薬品工業(株)  
科研製薬(株)  
化研生薬(株)  
鹿島建設(株)  
勝又自動車(株)  
(株) 北原防災  
キッコーマン(株)  
キッセイ薬品工業(株)  
杏林製薬(株)  
協和醗酵工業(株)  
キリンファーマ(株)  
グラクソ・スミスクライン(株)  
クラシエ製薬(株)  
クラシエ薬品(株)

岩倉 弘毅(昭37)  
伊藤 晴夫(昭39)  
今津 暉(昭40)  
赤井 壽紀(昭43)  
唐澤 祥人(昭43)  
辛 秀雄(昭44)  
中村 陽子(昭44)  
大西久仁彦(昭47)  
旭 俊臣(昭48)  
早乙女 勇(昭48)  
秋葉 哲生(昭50)  
福井 博行(昭56)  
白澤 浩(昭57)  
土屋 広明(昭57)  
角田 隆文(昭57)  
仲野 公一(昭63)  
岡本 和久(昭63)  
土井 茂治(平3)  
小山 虎信(公衆衛生学)

<p>京成建設(株) (株) ケーヨー 京葉銀行 京葉工管(株) 興和(株) 小太郎漢方製薬(株) (株) 小山商会 千葉営業所 佐藤製薬(株) サノフィ・アベンティス(株) (株) ザ・マンハッタン (株) サラト 沢井製薬(株) 参天製薬(株) (有) サン・プランニング (株) サンリツ (株) 三和化学研究所 (株) 志学書店 シエリング・プラウ(株) 塩野義製薬(株) 白鳥製薬(株) 菅原工芸硝子(株) (株) 正文社 ゼリア新薬工業(株) 第一三共(株) 大正製薬(株) 大日本住友製薬(株) 大鵬薬品工業(株) タカイ医科工業(株) 武田バイオ開発センター(株) 武田薬品工業(株) 田辺三菱製薬(株) (株) 千葉銀行 (株) 千葉京成ホテル 千葉中央会計事務所 千葉日産自動車(株) (株) 千葉薬品 中外製薬(株) (株) 銚子丸</p>	<p>塚本總業(株) (株) ツムラ 帝人ファーマ(株) テルモ(株) トリアエイヨー(株) (株) 東葛幸文堂 東京海上日動火災保険(株) 東和薬品(株) 富山化学工業(株) 島居薬品(株) 財団法人 同仁会 (株) ナリコー 成田山新勝寺 ニプロファーマ(株) 日本イーライリリー(株) 日本化薬(株) 日本ケミファ(株) 日本新薬(株) 日本臓器製薬(株) 日本たばこ産業(株) 日本ローリング・ゲルハム(株) ノバルティスファーマ(株) バイエル薬品(株) (株) パイオニア 萬有製薬(株) ファイザー(株) 東日本旅客鉄道(株) 千葉支社 富士タクシー(株) (株) 富士ワイルムメディカル 扶桑薬品工業(株) プリストル・マイヤーズ(株) 古谷乳業(株) ポニー油脂(株) (株) ほてい家 ホテルグリーンタワー幕張 ホテルニューオータニ幕張 マイラン製薬(株)</p>	<p>丸石製薬(株) マルホ(株) 丸万壽司 三井ガーデンホテル千葉 三井住友海上火災保険(株) (株) ミノファージェン製薬 明治製菓(株) 持田製薬(株) (株) ヤクルト ヤマサ醤油(株) 山崎製パン(株) (株) ヤンセンファーマ ロート製薬(株) ワイス(株) わかもと製薬(株) 千葉大学医学部 附属病院臨床医学研究助成会</p>	<p>丸原 教之 赤倉功一郎 安達 哲夫 荒木 拓次 飯田 豊 飯野 秀也 池内 英男 石神 博昭 石山礼美子 伊東 龍也 井福 正博 海村 昌和 太田 昌男 緒方 一 岡本 弘子 小野 文雄 笠間 昭彦 狩野 直樹</p>	<p>相田 英二 浅井 俊治 新井 英雄 有里 敬代 飯田 義三 井窪 保彦 池田 裕介 石田 和弘 和泉みどり 井上 憲二 岩花久仁子 大橋 茂 大庭 恵 尾形新一郎 奥山 広明 小谷野 信 片岡 清 加藤 誠 金子 浩一</p>	<p>上川床総一郎 菊池 敏美 北爪 秀政 工藤 琢也 蔵田 昌子 黒川 道徳 小曾根卓朗 小関 洋男 小嶋 清 齊木 教朗 櫻井 茂 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 杉浦 英一 高浦 和彦 高橋 恒雄 田島 啓二 田中 清七 坪井 良眞 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中川 徹亮 奈良 謙司 林 英一 日野修一郎 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤井 康史 藤田 邦臣 堀江 利彦 松岡 才二 松村 雅生 宮本 績輔 村井 健二 森口 毅 山田 雄一 山本 幸一</p>	<p>川端 基彦 岸野 光広 木下 富夫 熊谷 武久 栗原 俊夫 甲田 伸也 後藤 喜章 小西 敏郎 小林 洋一 酒井 雄一 佐藤 千鶴 下平 坦 須賀 秀晃 泉水 卓 高橋 修 竹本 勝己 橋 稔 塚田 俊行 遠山 高荳 豊田 弘 永井 玉枝 中川 洋一 名倉謙二郎 西織 哲大 東ヶ崎邦夫 平賀 幸弘 広沢 邦浩 福元 廣次 藤川 卓哉 堀井 宏志 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 武藤大二郎 森 豊 八木 毅典 山田 好則 与儀 実久</p>	<p>吉井 仁実 吉澤 尚嗣 若松 英彦 和田 正英 渡邊 修 吉岡 雅之 与芝 真彰 脇田 正実 正実 修</p>	<p>事務部 清水 富雄 堀江 寛 昭21 新井 正 大磯 英雄 国井 光智 佐藤 壹三 萩野 裕 本間 三郎 昭22 家本 誠一 神山 英明 千田喜久雄 信藤 羊一 茂又 真祐 昭23 板垣 修造 伊東 和人 海老原恒雄 窪谷 満雄 多賀谷 譲 西堀 乙彦 藤崎 滋 宮崎 隆次 専23 梅沢 亮 大平 馨 香取 郁雄 佐藤希志雄 鈴木 東洋 橋本 眞 水沼 三郎 渡辺 兼司 昭24 石谷 治彦 君島善次郎 國府田幸夫 佐々木宣明 鈴木 直基 田中 光</p>	<p>昭15 田中 洋 昭16 薬丸比呂志 渡邊 彦憲 昭17 浦野 英夫 山下 賢次 橋本 孝平 水間 正冬 専17 吉田 芳樹 昭18 朝倉 忠孝 佐藤 進一 田中 進 専18 川辺 敏 山田 悦朗 昭19 井出源四郎 清水 衛 平形 義人 専19 池 二郎 山崎 衛 昭20 長田 浩 草間 隆 横地 尚 専20 今島 浩 鶴澤 壽</p>	<p>堀江 寛 昭21 石原 眞 郡山 春男 齋藤 豊一 中島 浩二 古江 増蔵 三宅 和夫 昭22 石郷岡 寛 清水 健三 新田 実男 福島 溪二 鷺田 一博 一色 重義 上野 高次 九島 璋二 斉藤 嘉一 奈良 四郎 平岡 眞 前田 裕 和田 寛 昭23 大野 信次 柿栖 米夫 斎川 俊一 三瓶 善康 竹内 盈 中山 重男 宮入 繁夫 昭24 大林 泰 木村 康 小林 準三 鈴木 文男 高野 俊男 月岡 道雄</p>
---	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--

医学部後援会

医学部教職員等

同窓会員



土屋 與之 中島 令一 永瀬 治彦 長澤 仁一 福永 和雄 專24 博夫 伊佐 博夫 石井 貞一 植草富二郎 大橋 平治 奥野 文雄 河野 正賢 下坂正次郎 土田 功一 中村 彰 中村 精男 久安 徹 南谷 幹夫 山口 寅三 佐藤 恒好 昭25 恒好 池田佐嘉衛 越後貫 誠 葛田 瑞世 專25 瑞世 相磯 敬明 石毛 義治 円城寺 栄 河崎 明彦 木内 達弥 嶋田 勉 高木 美典 中澤 甫計 中野 正義 中村 裕 畑内謙二郎 宮内謙二郎 山崎 義人	寺島東洋三 中村 和之 長崎 邦泰 菱木 達明 武藤 滋 石井 克巳 石川 哲也 太田廣三郎 岡田 宏一 神山 一郎 霜島 正雄 鈴木 一郎 徳政 義和 中村 瞭 幡野 永由 福山 正臣 山川 晋吾 山本 惇 稲田 正實 佐久間光史 渡邊 良彦 青木 宣昭 市川 邦男 粕谷 秀雄 神原 昌言 島田 光重 下野 武 竹之内 弘 中田 秀明 長嶋 晟 奈良林 定 船曳 甫 森川 二郎 横山 宏	渡辺 武夫 昭26 定生 阿部 邦夫 伊藤 進 久我 哲郎 武井 稔 西宮 脩 柳澤 文憲 吉田 敏郎 專26 敏郎 大沢 弘和 津村 澄雄 平川 達 昭27 達 阿部 忠夫 有馬 忠正 大濱 博利 小沢 昭司 櫻井 稔 住吉 孝男 高見澤裕吉 原 恒男 武宮 三三 中野 清幸 鍋谷 欣市 藤田龍五郎 三橋 慎一 渡辺 武 專27 武 石橋 源三 壬生倉 勝 下野 武 磯垣 弘 秋山 龍男 石川 佳夫 梅澤 英正 小田 博之 加藤 一雄 唐木 清一	石井 邦夫 大倉 淳男 四家正一郎 土手内守人 細田 裕 大和 融 渡部 士郎 小関 芳昌 内藤 和穂 森 巨敬 有田 文章 井上 幸万 小川源太郎 河目 堯介 黄田 昭光 莊司 榮徳 橋爪 壯 関口 和夫 得本 真義 長崎 進 広田 和俊 本間 康正 渡辺 勲 磯垣 弘	川邊 兼美 熊谷 信夫 小山隆一郎 柴崎 晃 鈴木 正剛 平林 健六 塚本 勉 戸賀崎義治 長谷川正博 古川 英政 松本 龍二 山下 泰徳 吉田 道 若杉幹太郎 昭29 晃 荒木 晃 大藤 正雄 鹿山 徳男 佐藤 忠夫 柴田千葉男 富岡 清海 中野 練一 長谷川 透 福島 通夫 和昭 房治 昭30 房治 青木 昭治 浅見 敦 新井多喜男 伊谷 昭幸 岩井 忠志 片山 喬 貴家 昭而 小林 茂 後藤 澄夫 指田 和明 志村 昭光 高橋 宣光	窪田 靖夫 小澁 雅亮 澤田 勤也 清水 惟義 武市 正巳 寺嶋 亨 成田 光陽 平田 正雄 本位田泰介 森山 典男 山田 達哉 吉田 恭二 有馬 道男 大原 一夫 窪田 叔子 佐野 迪雄 島崎 淳 中塚 正夫 根本 幸一 羽生富士夫 米本 昭彦 秋元 駿一 浅利 行男 石神 一良 伊藤 敏夫 大坪 雄三 加濃 正明 小林 健次 小林 富久 斉藤 正道 清水 良平 高橋 康 滝口 光雄	十束 支朗 中島 和彦 永野 俊雄 藤山 嘉信 松田三樹雄 南園 義一 森田 茂 吉原 一郎 昭31 一郎 庵原 昭一 海老原雄一 加藤 繁夫 香田 真一 辻 輝藏 船橋 茂 山口 慶三 昭32 慶三 有馬 道雄 石川 正士 石川 登 柏木 一雄 三枝 一雄 仙波 恒雄 高橋 幸一 谷川 久一 中村常太郎 西村 忠雄 野本 昌三 林 達幸 福田 陽 前田 昌利 村上 和 依田 勇二 昭33 勇二 相原 茲明 石川 恭子 磯野 可一 宇野 一眞 岡本 達也	富田 裕 中野 政雄 野本 和男 古屋 大雄 丸川 和太 村瀬 靖 横田 俊二 渡邊 英詩 上原すゞ子 小野清四郎 桑原 久 杉山 伸子 西原源太郎 森 元 碧 山野 元 飯塚 正章 大久保恵司 神田 收茲 齋藤 幸洋 高橋 柳子 竹内 達 戸川 清 夏目 隆一 野川 久一 関 泰男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 宏 昭35 宏 雨宮 浩 市村 公道 岡田 光生 軽部 達夫 海保 允 北方 勇輔 河野 宏	小野寺美津雄 金子 延年 小林 洋一 近藤洋一郎 佐藤 俊一 石川美智子 清水 文七 高木 學治 武田 從信 辻 陽雄 長崎 護 林 國春 谷川 章子 御子柴幸男 昭34 幸男 赤星 至朗 植田 伸夫 遠藤 幸男 倉持 正昭 坂田 早苗 清水順三郎 清水 精子 鈴木 良章 多田 富彦 関 泰男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 宏 昭35 宏 雨宮 浩 市村 公道 岡田 光生 軽部 達夫 海保 允 北方 勇輔 河野 宏	神原 秀三 佐藤 重明 佐藤 通 佐藤 茂 鈴木 益允 中田 静子 成田 鎮雄 長谷川鎮雄 堀田とし子 真島 吉也 三橋 稔 村松 準 山崎 英雄 昭36 英雄 新井 一夫 岡田 信道 小野沢君夫 加藤 昌義 川村 光毅 吉川 武彦 栗原 正明 吉永 雅俊 今野 昭義 青木 謹 鈴木 伸典 関 幸雄 谷合 明 塚原 重雄 中田 義隆 野本 一夫 長谷川幸子 藤塚 立夫 前嶋 清 守山 洋一 横山 健郎 吉野 明昭 昭37 明昭 石山 淳一 伊藤 文雄	貞永 嘉久 佐藤 甫夫 嶋田 裕 千野宗之進 永田 一郎 西川 侃介 藤村 眞示 堀江 武 高梨 健治 中山 博 原田 康行 藤森 宗徳 堀口 東司 森 豊 柳沢健一郎 山本 駿一 油井 信春 綿引 義博 昭38 義博 浅野 尚 穴沢 輝一 黒田 健昭 栗原 敬二 北原 孝子 川村 孝子 加藤 喜市 小越 章平 石下峻一郎 新井 一夫 昭36 一夫 谷川 章子 森 有徳 檜垣 貞利 吉田 貞利 石川 克夫 植村 研一 春日 建邦 齋藤 篤 塩川 喜之 坂田 早苗 清水 精子 清水 良章 高木 良章 津金澤督雄 野口 徹男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 宏 昭35 宏 雨宮 浩 市村 公道 岡田 光生 軽部 達夫 海保 允 北方 勇輔 河野 宏	安達惠美子 小野 幸雄 勝田 貞夫 油井真知子 宍倉 正胤 岩倉 弘毅 田島 誠 高梨 健治 中山 博 原田 康行 藤森 宗徳 堀口 東司 森 豊 柳沢健一郎 山本 駿一 油井 信春 綿引 義博 昭38 義博 浅野 尚 穴沢 輝一 黒田 健昭 栗原 敬二 北原 孝子 川村 孝子 加藤 喜市 小越 章平 石下峻一郎 新井 一夫 昭36 一夫 谷川 章子 森 有徳 檜垣 貞利 吉田 貞利 石川 克夫 植村 研一 春日 建邦 齋藤 篤 塩川 喜之 坂田 早苗 清水 精子 清水 良章 高木 良章 津金澤督雄 野口 徹男 原 久彌 藤田 昌宏 矢崎 光保 矢野 榎多 田口 勝 横山 宏 昭35 宏 雨宮 浩 市村 公道 岡田 光生 軽部 達夫 海保 允 北方 勇輔 河野 宏	奥山 隆保 大原 啓介 黒岩 璋光 斎藤 全彦 杉岡 昌明 高井 満 中村 嘉孝 伯野 中彦 福士 和夫 布施 吉弘 村田三紗子 矢野 靖子 山口 國行 吉川 正宏 佐々木 守 渡辺 實 安達 元明 木下 敏子 大津 裕司 加藤 友衛 北村 温 栗原 仲夫 畔田 浩 佐藤 裕俊 蘭部 和子 玉置 哲也 十河 正寛 寺島 市郎 鳥羽 剛 長山 忠雄 野本 泰正 林 直諒 藤本 重義 三木 亮 緑川 隆 宮治 誠
---	---	--	---	--	--	---	--	---	---	---	---	---

税所 宏光	荊谷 英郎	小澤 弘侑	大木 健資	漆原 昌人	遠山 敬介	青木 至	昭40	山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	根岸 敬矩	永山 恵美子	千葉 胤道	高沢 博	鈴木 守	清水 天	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	小林 俊憲	木内 政寛	河井 克仁	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	遠藤 毅	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	渡部 浩二	山口 宗彦	村山 憲太
崎山比早子	小島 莊明	冠木 徹彦	大本 恭平	海老沼光治	今津 暉	天海 照夫		米満 道子	山下 武広	山口 正敏	本村八恵子	三浦 徹蔵	深尾 立	原 輝彦	那須野光政	塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水完次朗	崎山 裕康	齊藤 裕	小林 豊	古謝 景春	川西 恭子	角張 雄二	小野健次郎	大森 忠昭	大河原邦夫	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田中 則好	瀧澤 弘隆	高瀬 靖広	曾野 文豊	島 毅	辛 京碩
昭42	渡辺 寛	竜 良方	安江 万二	御園生正紀	福田康一郎	半澤 宣生	中村 宣大	永井 嘉一	塚本 徹	竹島 和夫	高山 和夫	鈴木 弓	白濱 龍興	塩沢 博	佐々木徳秀	小林 伸行	桑木 綱一	神谷 努	若新 洋子	大塚 明彦	大島 仁士	飯島 幸雄	天羽 達郎	昭41	吉川 広和	山浦 晶	石神 敏子	日景 高志	伊藤 ルミ	西村 和子	柳木亮太郎	角田 興一	瀧澤 弘隆	高瀬 靖広	曾野 文豊	島 毅	辛 京碩
	渡辺 一男	鎗田 努	溝口 勝	福田 淳	平澤 博之	市川 清子	中島 龍一	飯田 文隆	田中 豊	竹内 哲男	高橋 淳一	鈴木 豊	島田 哲男	里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	菊池 義公	柏原 英彦	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎	昭41	渡邊 攻	山田 勝巳	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	長尾 龍郎	角田 興一	竹内 龍雄	高野 元昭	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	
滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 清	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 斉	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	関 三千代
田代 重彦	高山 直秀	鈴木 秀	宿谷 正毅	佐藤 文彦	斎藤 弘司	小山 哲夫	久野 宗寛	北原 宏	唐澤 祥人	梶尾 高根	小澤 俊	網代 成子	伊藤 進	磯村 勝美	足立 英雄	赤井 壽紀	昭43	渡辺 道典	林 益子	守屋 秀繁	森田 喜崇子	藤田 優	平賀 一陽	比嘉 英磨	服部 孝道	忍頂寺紀彰	鍋島 和夫	中島 克巳	内藤 準哉	高部 吉庸	谷口 克	更科 廣實	冠木 敦子	勝保 剛志	関 隆郎	伊藤 達雄	石井 従道
吉田 行夫	吉井與志彦	高橋 秀禎	間山 素行	細井 湧一	萩巢 敏子	林 恒男	西村 則之	中村 陽子	東山 義龍	田沢 洋一	東山 都紀	辛 秀雄	与儀 裕	神津 照雄	窪田 勝也	小藤田禮章	河崎 純忠	落合 靖男	岡崎 壮之	遠藤 晴久	石渡堅一郎	飯塚 登	浅野 武秀	昭44	和田 源司	保坂 忠成	和泉 佳子	李 思元	松清 央	堀井文千代	舟橋満寿子	藤塚 光慶	中村 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	
吉田 操	吉田 厚子	山岸 洋三	矢田 弘	堀江 圭敏	星山 雅意	林 勝武	西島 清美	中林 英世	千本 宏明	高良 宏	須藤壯一郎	篠原 義賢	齋藤 康榮	高田力志行	黄田 悦子	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	遠藤 政隆	内海 武彦	石川 達雄	飯島 信行	横堀 直孝	昭44	横堀 直孝	矢島 寿夫	竜 崇正	盛 克巳	堀川 義文	星野 聡	藤原 邦子	高岡 正雄	仲尾 清	鳥居 雅江	千葉 彌幸		
久保木正夫	北野 邦孝	木澤 庸一	金田 隆司	門井 奉祐	萩原 泰一	大友 一夫	牛嶋綱二郎	高瀬 直子	千葉 幸恵	昭46	渡辺 高穂	与儀 裕	向井 純子	榎本 純子	宮園千代子	林 泰	長谷川 毅	野田 宏子	中山 章	伴野 悠士	寺澤 捷年	滝沢 淳	高橋 正年	菅ヶ谷純弘	堺 常雄	黒田 重史	北島 忠昭	榎本 正満	細山 公子	一戸 彰	小俣 政男	有賀 直文	相田 尚文	昭45	和田 力	渡辺孝太郎	
結束 温	杵掛 伸二	木口 博之	神崎 頼仁	磯部 洋子	加来 俊貞	大森耕一郎	内田朝彦	今田屋章	浅野さとえ	渡部十九六	吉田 光宏	湯原 幹男	宮原 弘次	古川 隆男	平山 博久	花輪 孝雄	橋本 英明	永岡喜久夫	中野 義澄	天神 弘尊	千見寺 勝	高橋 長裕	住吉 徹是	杉山 吉克	腰塚 邦夫	木村 和明	奥山 和明	梅津 亮二	伊藤 文二	家里 憲二	新井 裕二	昭45	渡辺 義郎	大川 昌権			
昭48	渡辺 滋	若山 芳彦	吉田 象二	松川 正明	葉山 輔治	西野 啓一	長尾 卓	中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	鈴木 光二	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西十九三	岡 信男	大野 一英	榎本 貴夫	稲葉 憲之	石川 詔雄	昭47	渡部 恒夫	与那嶺和子	山室美砂子	三浦 利重	保阪 善昭	文 隆雄	川村ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	丹羽 有一	田畑陽一郎	多賀谷 茂	高瀬 学	鈴木 直人	櫻井 幸弘	大川 昌権
	脇坂 正美	力武 知之	山森 秀夫	榎垣 進	野口 武英	西川 哲男	中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	勝呂 徹	眞山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大西久仁彦	宇津見和郎	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 勢至	昭47	坂口 明	若林 康之	吉田 孝宣	柳橋 京子	保坂 英一	船津 恵一	平野 和哉	濱野 頼隆	長谷川吉則	中村 欽哉	谷口 璽子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	
片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善	青柳 博	昭49	横山 淳一	山田 憲一	安野 政彦	守田 憲一	保高由美子	前川 岩夫	千見寺 徹	野鳥 文磨	野口 哲夫	灘岡 壽英	中村 明	徳久 剛史	竹中 正治	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 勢至	昭47	坂口 明	若林 康之	吉田 孝宣	柳橋 京子	保坂 英一	平野 和哉	濱野 頼隆	長谷川吉則	中村 欽哉	谷口 璽子	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	
金子 作蔵	入江 澄子	岩津都希雄	有田 正明	青柳 光生	横山 徹夫	山本 義一	山路 正文	森山 紀之	南 昌平	保阪重莉沙	千見寺ひろみ	野村 馨	内田 宏子	永山 洋子	内藤 威	千葉 次郎	高安 賢一	早乙女 勇	鈴木 晴彦	末石 眞	昭47	佐藤 展将	後藤 澄雄	小林 健一	高圓 博文	木村 秀樹	兼坂 俊章	大場 敏明	上村 重明	岩本 逸夫	上村 代子	浅野 昇	赤松 徹	浅野 誠			

増田 政久	野村 文夫	西山 徹	高橋 道子	永瀬 謙史	内藤 正文	戸塚 清一	高林克己	勝呂 慶子	篠遠 彰	佐々木 健	齊藤万比古	小出 義雄	北川 道隆	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	上田 志朗	安東 昌夫	麻生誠二郎	秋葉 哲生	昭50	渡辺 順子	森川 真一	渡辺 博子	長谷川 純	西山眞理子	中村 文子	土佐 純一	田町 誓一	田中 真	田中 秀之	武井 泉	鈴木 亮二	佐藤 武幸	五月女直樹	木村 純	田辺恵美子
増村 道雄	本田 徹	野積 邦義	登坂 薫	小林けい子	中尾 照逸	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐野千寿子	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	入江 氏康	飯田 眞司	秋谷 徹			弓削 一郎	三上 恵只	鳩貝 文彦	野村 恭子	西山 裕孝	飛澤 彰	南郷 晃	田邊 政裕	田中 正	田中 順子	高原 善治	鈴木 洋一	桜庭 庸悦	小林 裕夫	菊地 紀夫
塚田 和美	高田 俊一	鈴木 久史	小林 純	久保田浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐辰男	昭52	山本 和夫	八木橋美範	皆川 秀夫	松谷 正一	蒔田 国伸	布施 秀樹	菱沼 静男	南波 美伸	寺野 隆	塚本 剛	篠塚 正彦	斎藤 典男	小松 健祐	伊古田裕子	川村 健二	門山 和則	小野 純一	岩崎 秀昭	森本 典子	赤嶺 正裕	昭51	山本 博憲	山岸 文雄	村野 俊一	宮崎 彰	松谷 和徳	
中沢 肇	高橋 敏信	須田 啓一	鈴木 孝雄	小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子		由佐 俊和	森 順子	松村 勉	蒔田 順子	紅谷 明	姫野 雄司	林 春幸	角南 兼朗	武永 博	寺崎 太郎	高橋 和久	佐藤 兼重	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	河合 誠義	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	横須賀 收	山本日出樹	森野 正明	宮崎 勝	宮内 大成	
小林 進	掛田 充克	大内純太郎	石毛 俊行	五十嵐忠彦	昭54	渡邊 浄	若林 正治	吉原 俊雄	吉澤 卓	山上 岩男	森 照男	三瀧 忠道	野々村裕子	仲田 勲生	得丸 幸夫	寺井 勝	武永 博	角南 兼朗	菅沢 寛健	小林 敏生	川俣 泰男	石川てる代	荻野 幸伸	宇田川晃一	上田源次郎	石川 洋	新井 貞男	昭53	山縣 正庸	安田 敏行	松前 孝幸	升田 吉雄	古川 斎	福田 薫	兵頭 明夫	林田 和也	中村 勉
小林 繁樹	軍司 祥雄	萬 伸子	今関 文夫	伊澤 英次		和田 二郎	李 元浩	吉田 英生	山口 哲生	山川 久美	塚田 純子	花岡 明宏	中村 弘	内藤 隆	徳重 克彦	塚本 哲也	高良 健司	鈴木 文晴	荏原美千代	北村由美子	加藤 義治	織田 成人	遠藤 和男	上野 泉	伊藤 公道	安 徳純	山田 善重	山口 一	湊 明	松岡 和夫	堀部 堅二	伏島 昇	広岡 薫	檜前 大典	中山 大典		
川副 泰成	加藤 邦彦	小川 利隆	上田 昌弘	伊藤 博	伊丹 純	足立 武則	昭56	羅 智靖	湯口 恭利	宮崎 三忠	前田 勝久	深水 一雄	水見 寿治	蓮沼 桂司	野田 和男	永井 將道	十川 康弘	亀井太美子	砂田 莊一	杉原 茂孝	潮平 芳樹	栗原 和男	神崎 哲人	雄賀多 聡	上杉 健哲	有我 隆光	昭55	渡辺 恒家	宮本 北見	林 泉	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	鈴木 良一	杉浦 信之	下条 直樹	近藤 福雄
高 在完	亀井 紀雄	笠松 陽一	岡 伸行	伊藤 隆	井関 徹	渡辺 昭彦	吉永 勝訓	諸田 英夫	諸田 英夫	松井 英雄	藤田 明	平賀 幸弘	水見 京子	橋本 尚武	長島 俊通	鳥居 豊実	土田 篤	須藤 義夫	田中 篤	須藤 義夫	柴橋 博之	斎藤 康文	久木田親重	長 雄一	植松 武史	石橋 巖		吉田 弘道	福田 幾夫	中村 眞人	鶴田 好孝	田川まさみ	角南 祐子	杉田 克生	白土 英明	篠遠 仁	
山本 恭平	山口 卓秀	守月 尚嗣	丸山 玲子	難波 清	中澤 功	豊泉惣一郎	丹沢 秀樹	高原 正信	酒井 直美	角谷 明子	島田 真彦	下山 直人	篠崎 克己	川島 文夫	海保 淳一	岡田 淳一	ピアス洋子	石津谷義昭	天野 穂高	昭57	吉川 正治	森永 哲文	望月 眞人	三浦 正義	松村竜太郎	福武 敏夫	松本 俊一	長谷川 潔	中村 広志	友利 秀憲	武内 重康	瀧口 正樹	高田 博之	鈴木 裕子	清水 俊行	座間 秀一	五島 茂之
和久 真一	山西 友典	安原 一彰	古川 敬芳	丸 宏昭	幡野 雅彦	中村 清吾	角田 隆文	土屋 敬久	佐野 信昭	龍野 一郎	白澤 浩	下山 直人	篠崎 克己	木村 文夫	海保 淳一	岡田 淳一	ピアス洋子	石津谷義昭	天野 穂高	昭57	脇田 久	湯山 琢夫	森石 丈二	道永 幸治	松村千恵子	堀内 啓	福井 博行	馬場 章	永島 薫	中島 一彰	土屋 明弘	道永 麻里	田川まさみ	平良 眞人	杉山 隆夫	繁田 美香	小林 史朗
岡田 朝志	石島 秀紀	有田 洋右	阿部 恭久	昭60	吉田 正美	山内 直人	持田 晃	光永伸一郎	星野 育男	平井 伸治	中川 宏治	高梨 一紀	下山 恵美	桑原 聡	小野崎郁史	岡本 弦	伊豫 雅臣	磯野 史朗	赤倉功一郎	昭59	山本 修一	山崎 正志	宮副 一郎	星岡 明	深沢 毅	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井眞紀子	今田 進	亀山 伸吉	岩立 康男	池田 政文	昭58	
佐藤 典子	井上 雅子	五十嵐裕章	安蒜 聡		渡邊 和義	山本 光之	守矢 秀幸	村井 尚之	松原 久裕	藤本 肇	西島 由美	露口 利夫	高橋 弦	高石 聡	幸田 圭史	勝木 利行	奥脇 治郎	市川 雅彦	伊豆 敦子			横内 敬二	山崎 俊司	丸山 浩	武城 英明	日野 剛	長門 義宣	築藤 玲子	田島 和幸	高木 一也	品田 良之	近藤 克則	岸 幹夫	加藤 雄一	石川 信泰		
坂本 明美	押田 英里	秋元 知彦	青江 崇夫	昭62	結城 康二	村上 保	林 哲二	西脇 美樹	長門 文子	寺内 隆司	園田 昌毅	須藤 宏明	清水 晴彦	佐藤 博史	木元 浩之	菊地 直也	加藤 直也	香川晃太郎	今牧 瑞浦	石田 厚	石井 浩	安達 智江	昭61	保元 明彦	森嶋 友一	林 秀樹	鍋谷 圭宏	堂垂 伸治	豊沢 忠	長 晃平	竹田 秀一	佐野三千広	古口 徳雄	窪田 徳幸	北崎 等	菊野 薫	
江畑 龍樹	大賀 義浩	飯嶋 正彦	青柳 啓治		渡辺 俊範	三浦 信之	古谷 雄三	萩原 雅司	西村 美樹	中澤 亨	高谷 美成	芹澤 寛	新藤 貴志	沢田 直弘	櫻本 薫	金田 庸一	片橋 立秋	小田 健司	伊藤 宏文	石井 光子	有田 誠司			吉野 薫	師尾 幸正	宮澤 隆雄	並木 信一	中 信一	豊根 知明	土屋 英明	田邊 昌彦	鈴木 誠一	坂井 義孝	木元 正史	北川 憲一		



小池	細木	守	野	感	中	井	薬	野	病	角	鈴	梶	石	泌	三	張	石	腫	日	芦	遺	石	腦	渡	高	柿	石	眼	桑	代	小	神	田	診		
林上	胞治	分子	野呂	染生	谷	上	理	田	原	谷	木	本	引	尿	方	ケ	井	瘍	和	野	伝	川	神	部	綱	栖	渡	木	謝	平	經	那	断			
淳二	療内	生体	瀨一	生体	晴	優	学	公	分子	典	文	伸	雄	器	一	健	源	病	佐	洋	子	徹	外	美	陽	米	東	共	生	宏	理	理				
齋	風		青			門				真	富	茂	大		古	北			岩	永					山	大										
藤	戸		才			田				鍋	岡	田	隅		木	川			瀬	野					中	原										
康	豊		文			健				溥	進	安	信		新	元			克	修					智	む										
			江									幸														つ										

渡	田	鈴	小	整	露	上	金	太	阿	小	中	免	内	分	宮	齊	遺	芳	伊	動	齋	齋	外	年	形	米	分	佐	黒	皮	岡	臟	清		
邊	波	木	野	形	崎	林	澤	田	部	兒	山	疫	田	化	武	藤	伝	野	勢	物	藤	藤	山	森	態	滿	子	藤	田	膚	村	器	水		
英	秀	弘	崎	外	俊	直	正	節	博	病	俊	発	昭	制	昌	隆	子	春	川	病	哲	哲	芳	清	成	博	千	啓	伸	制	御	公			
一郎	文	祐	晃	科	明	子	樹	雄	紀	態	憲	生	夫	御	一	隆	制	生	直	態	一	一	隆	隆	博	鶴	啓	伸	御	外	子				
		武	篠		渡	多	川	忍	花				近						伊					豊	伊	松	伊	鈴	小	岡	小	中	清		
		内	原		邊	田	上	足	城				藤						藤				田	田	本	藤	木	野	林	林	大	岡	村	水	
		重	寛		福	裕	武	美	恵				大						勇				山	二	英	文	啓	之	賢	二	賢	二	賢	二	公
		樹	休			司	子	子	子				正						夫				行	美	夫	夫	文	之	二	二	二	二	二	子	
		一																					雄	枝	夫	夫	子	子	之	二	二	二	二	二	子

翠	嶋	佐	大	木	小	石	臨	宮	杉	江	循	岩	細	吉	恒	呼	遠	荒	日	精	米	日	寺	須	久	越	宇	足	腫	山	橘	岡	耳		
川	田	藤	川	村	河	山	床	内	林	原	環	間	胞	野	元	吸	山	居	下	神	滿	暮	田	田	原	後	野	立	越	隆	昌	本	鼻		
鎮	健	匡	和	孝	原	信	分	郁	昭	和	病	厚	分	一	博	器	龍	忠	医	裕	協	洋	惠	淳	厚	貫	隆	公	隆	孝	美	咽			
生	健	司	子	雪	克	之	子	枝	男	枝	態	志	子	郎	中	病	雄	文	学			臣	惠	淳	生	道	代	代	隆	孝	秀	喉			
		高	椎	坂	小	大	鶴	諸	元	小	医		太	中	伊	外	伊	伊	伊	伊	伊	馬	多	及	川	奥	内	三	寺	小	鎌	横			
		橋	本	本	野	木	澤	岡	山	室	学	田	島	東	東	科	藤	藤	藤	藤	藤	場	田	川	山	山	橋	田	田	田	田	田	田		
		美	洋	洋	可	保	一	信	妙	一		要	崇	久	久		夫	夫	夫	夫	夫	次	武	貞	千	桂	幸	麗	久	洋	洋	洋	洋		
		惠	右	右	苗	秀	弘	裕	子	成		生	裕	修	修		修	修	修	修	修	文	江	子	子	信	子	文	文	文	文	文	文	文	
		子	史	史	史	史	史	史	史	史		史	史	史	史		史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史	史

新ののほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成26年3月31日現在

寄付者	千葉大学基金		ののほな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	154	52,109,000	16	3,440,000	170	55,549,000
教職員 (元職員も含む)	225	26,264,000	121	4,190,861	346	30,454,861
同窓会会員	1,823	129,499,000	1092	43,351,383	2915	172,850,383
後援会会員	94	5,483,000	54	3,775,000	148	9,258,000
合計	2296	213,355,000	1283	54,757,244	3579	268,112,244

盛永 智子 横江 秀隆  
先端応用外科 伊賀 浩 海宝 雄人  
久保田 亨 佐久間洋一  
篠原 靖志 神宮 和彦  
原田 昇 治文  
元山 逸功 牧野 治文  
生命情報科学 田村 裕  
心臓血管外科 松宮 護郎  
手術部 飯寄 奈保  
総合診療部 政臣

薬剤部 大森 栄 北田 光一  
先端和漢 笠原 裕司  
43クラス会  
ののほな同窓会  
七葉会(専25)  
五窓会(専23)  
八千会代表大沢弘和(専26)  
葉々会  
昭和61年卒同窓会  
矢作会代表永野俊雄(昭30)  
西千葉医師の会  
北田光一教授退官記念事業会  
千葉大学医学部脳神経外科教室

もぐら会  
ののほな37会  
千葉大学医学部平成4年の会  
昭和53年卒同期会  
お詫びと訂正  
前号(165号)  
20頁  
亥鼻祭  
2013年度亥鼻  
祭実行委員会  
池田耀介  
(医4)↓(医3)  
お詫びして訂正させ  
ていただきます。

平成27年版名簿発行のお知らせ

このたび、平成27年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。  
同窓生の皆様には、名簿掲載内容の確認はがきや名簿購入の案内状を送付して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成26年10月下旬
- 体裁：変型A4判(約520頁)
- 名簿価格：3,000円

名簿作成委託先

このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト(兵庫県姫路市)に委託しております。  
株式会社サラトのホームページ <http://www.salat.co.jp>

キッセイ薬品は、世界の人々の健康のため、さまざまな分野の新薬の研究・開発に、とり組んでまいります。

シェーグリーン症候群とドライマウス、前立腺肥大症と排尿障害などについての分かりやすい情報をウェブサイトにて提供しています。

キッセイ健康劇場

KISSEI

キッセイ薬品工業株式会社

本社：〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号  
東京本社：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号キッセイ日本橋ビル  
〒112-0002 東京都文京区小石川3丁目1番3号キッセイ小石川ビル

平成25年度 第2回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成25年11月14日(木) 18時より  
場所：東京ステーション  
コンファレンス

出席者…

- 伊藤晴夫(会長)
- 大井利夫(副会長)
- 済陽高穂(副会長)
- 鈴木信夫(副会長)
- 田中 光(会計監事)
- 税所宏光(参与)
- 青木 謹 岩倉弘毅
- 岡本和久 織田成人
- 小野田昌一 三枝一雄
- 坂田早苗 宍倉正胤
- 白澤 浩 鈴木 守
- 田邊政裕 角田隆文
- 幡野雅彦 花輪孝雄
- 森 豊 吉川広和
- 吉原俊雄 (敬称略)

伊藤晴夫会長の挨拶の後、新常任理事幡野雅彦氏より挨拶があった。同会長が座長となり議事が進められた。

議題

1. 報告事項

(1) 予算執行状況(中間報告)について

白澤浩理事より資料に基づき25年度の中間決算について説明された。収入は、ほぼ予定どおりであるが、寄附金が会報関連広告収入

の増で予算額を上回り、同窓会館設立のため基金の取り崩しを予定し70,000,000円を予算に計上していること。支出では、備品費で事務局のパソコンが壊れたため購入、I T広報関連事業費、会報会誌では会報のページ数が多かったために会報印刷費、等が予算を上回ったとの報告がされた。学生活動助成金から本年度から始まった交換留学の支援を一部行い、今後も学生への援助を予定していることが報告された。

(2) 新めのはな同窓会館第一期工事について

田邊政裕理事より資料に基づき新めのはな同窓会館第一期工事について説明された。9月30日現在の募金状況、工事中の写真等が示され、12月末に竣工予定であることが報告された。

(3) 広報編集関係

鈴木信夫副会長より、同窓会報165号は12月末に発送予定であり、原稿の集まり具合などについて説明があった。オンライン会報については動画が100ほどに増え、来年度の予算で索引の作成を希望している旨報告された。

(4) 名簿発行について

白澤理事より、名簿は3年毎に発行しており前回は2012年版であり、2015年版が来年2014年末には発行予定であることが報告された。

(5) その他

田邊理事より、新めのはな同窓会館竣工のため現在ある旧めのはな同窓会館を取り壊す事が報告された。

2. 協議事項

(1) 役員会務分担について

白澤理事より、資料に基づき同窓会常任理事として、幡野雅彦(昭57)、黒木春郎(昭59)が新たに加わること、会務分担については庶務部担当の瀧口正樹理事が記念事業委員会に、白澤理事が会計部より庶務部にと担当が代わり、幡野理事は会計部、黒木理事は将来検討委員会との案が説明され、承認された。

(3) 同窓会賞選考委員について

田邊理事より、資料に基づき学内より2名、学外より5名の同窓会賞選考委員候補が挙げられ、承認された。

(4) 総会開催日程について

平成26年度の総会開催日は第1候補の6月14日(第2土曜日)と決定した。担当は大学となっており、新めのはな同窓会館での開催とする。

平成25年度 第3回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成26年2月12日(水) 18時より  
場所：東京ステーション  
コンファレンス

出席者…

- 伊藤晴夫(会長)
- 大井利夫(副会長)
- 済陽高穂(副会長)
- 鈴木信夫(副会長)
- 秋葉哲生(会計監事)
- 田中 光(会計監事)
- 青木 謹 岩倉弘毅
- 岡本和久 加部恒雄
- 黒木春郎 三枝一雄
- 早乙女勇 宍倉正胤
- 白澤 浩 鈴木 守
- 田邊政裕 角田隆文
- 花輪孝雄 森 豊
- 吉川広和 (敬称略)
- 伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が座長となり議事が

(5) その他

・新めのはな同窓会館へ同窓生の描いた絵画を飾ることを検討する。  
・新めのはな同窓会館の今後の使用規定、管理などについて建物委員会にて検討する。

・同窓会会員が千葉大学附属病院に外来診療に訪れた場合、その対応のために専門のめのはな同窓会事務局の職員を置いてはとの意見があった。

が進められた。

議題

1. 報告事項

(1) 予算執行状況(中間報告)について

白澤浩理事より資料にもとづき、平成25年度の間決算報告があった。収入については会費収入が例年どおりであるが、会報の広告掲載収入が予算を超えたこと。支出については、(1)旅費において、新めのはな同窓会建設関係者への旅費を支出したため、(2)備品費において、同窓会事務PCのウインドウズXPサポート切れのための順次買い替えを行ったため、(3)会報・会誌の印刷費において、頁数が多かったため、(4)I T広

報関連事業費において、それぞれ予算を超えてしまうことにつき報告があった。

(2) 広報編集関係

鈴木信夫副会長より次回めのはな同窓会報の発行は5月を予定していることが報告され、原稿は2月下旬までに送ってほしいとの連絡があった。

2. 協議事項

(1) 平成26年度行事予定

白澤理事より資料に基づき、以下の行事予定が承認された。  
常任理事会  
平成26年4月17日(木)、11月12日(水)  
平成27年2月12日(木)  
(水曜、木曜、交互の開催)  
平成26年6月14日(土) 会報発行  
平成26年5月、9月、平成27年1月 同窓会賞決定  
平成26年4月17日(木) (2)平成26年度総会について (1)により開催日程が承認され、担当は大学、開催場所は新めのはな同窓会館とし、講演は徳久剛史次期学長に依頼し、内諾を得ていることが報告された。  
(3)平成26年度予算編成  
白澤理事より平成26年度

討すべき点について説明があり、以下のような提案がなされた。①旅費を5万円から10万円に増額。②消耗品費については、コピー代等を見込み増額。③猪之鼻奨学会法人化支援のため助成金を増額としていたが、

今後は薬学部からの支援より若干多い40万円を助成する。③白衣式には、学生に送る白衣購入費に加えDVD製作費を加えて50万円とする。以上のようなことを踏まえて平成26年度予算案を編成することが了承された。

(4) 新めのはな同窓会館について

白澤理事より、資料に基づき、新めのはな同窓会館の使用規定(案)について説明があった。同窓会館の現在の使用規定はなく、他大学や西千葉のけやき会館の使用規定を参考とした。完成後は大学に寄贈するため基本的に大学が設置する形をとり、管理運営責任者を医学部長とし、運営に関する重要事項の決定は医学部教授会とする。使用申し込み受付は、学生は3か月前から、教育関係の催し、同窓会員は6か月前からとする。今後、さらに意見を

取り入れながら、この案を使用規定として進めていく

ことが了承された。  
 (5)その他  
 秋葉哲生理事より、若い  
 会員に同窓会の運営を委ね  
 られるように主要な同窓会  
 の役員の定年制を設け、そ  
 のための規約の改正を検討  
 してはとの提言があった。  
 提案に対して、種々の議論

平成26年度 医学部入学者

赤松 俊信	新井裕太郎	白石 晴香	菅原ゆたか
安斎 春香	安藤 英俊	鈴木 大貴	須藤 大賀
飯澤 勇太	飯田 太郎	須藤 隆仁	高坂 享佑
池田晋太郎	池間 俊輔	高橋誠志郎	高橋満里菜
石川 達郎	石川凜太郎	高橋 有樹	瀧口 翔太
石川 瑠惟	和泉 光鎮	武田 宜高	立原 茉優
磯部 琴絵	一戸 良太	立林 卓	田村 有
井上 佳奈	岩井 沙椰	鄭 幸佳	千葉えみり
岩崎 衛	岩中 美聡	千葉 智貴	土屋 太一
上野 健	上原 陸	仲 理允	仲 祐太郎
内田 智也	宇津野芳彦	中務 由彦	中出 麻美
大谷 祐介	大森 智瑛	中村 和哉	中村 優太
大山 壮歩	岡野 優一	西岡 未来	貫井 聖人
小野 祐子	門倉 祐貴	野田万里子	萩原 悠介
金子 侑暉	金子 優花	八田 宗粹	林 亮佑
金子 真人	鎌田 美夕	平井健太郎	平野 将弘
亀田 静	川上 潤	深澤 嘉樹	藤井 達也
橋川 友哉	鬼頭 一明	藤崎 敬太	布施 宏樹
久保田姫子	黒川幸一郎	星 佳佑	細田 航平
クニシズミ	高坂 柁博	細谷 学	前田 隆志
古城 正偉	小林 浩	町田 蓉子	松永真由子
小松 達矢	小山玄太郎	松野 正直	松本 洋麻
齋藤 奏	齋藤 高彦	三浦 彩人	南 研人
坂井 元春	佐藤 高浩	南 智樹	宮越 麻彩
佐藤 玲子	塩谷 悠斗	村尾 真季	森島 悠介
篠原 浩幸	清水 文也	森田 泰史	野牛 勇佑

平成26年度 大学院入学者

博士課程

山内 麻央	山本 峻大	依田 夏美	李 晟賢
山本 祐美	結城 駿	凌 将登	渡邊 啓
横田 英博	吉岡 正揮	渡部 裕	和田 七海
吉野 啓人	吉本夕里子	杉田 明穂	

「遺伝子制御学」 牧田莊平  
 「眼科学」 北村裕太、清水大輔、千葉晃大「環境生命医学」 山田卓博「形成外科学」 山路佳久「公衆衛生学」 高橋由衣子、宮國康弘、柳奈津代「細胞治療内科学」 井出真太郎、菅澤佳奈、茂手木宏美「耳鼻咽喉科学」 越塚慶一、三田恭義「消化器病態学」 太田佑樹、熊谷純一郎、高橋幸治、西尾匡史、大和陸美、横山昌幸「小兒外科学」 小林真史、D.S. SANNAYAKE EISHIKA SHALINI「心臓血管外科学」 稲毛雄一「診断推論学」 廣田悠祐「生殖機能病態学」 大久保毅「先端化学療法学」 江畑貴大、大熊ひとみ「臓器制御外科学」 米浦直子「代謝生理学」 張錫麟、藤井早紀子「認知行動生理学」 公家里依、後藤悠人、野口玲美、水野光仁「皮膚科学」 高田紗奈美、中川誠太郎「分子腫瘍生物学」 井上貴博、平岡桐子「法医学」 星岡佑美「放射線医学」 黒川茉莉絵、高橋加奈「放射線治療

修士課程

子、竹内信善、滑川剛史「分子ウイルス学」 陳偉魏、田錚「分子機能制御学」 OLA MOHAMMED KAMEL ABDEBASSIR HELAL RIZO、太良史郎「免疫制御学」 松田正史「免疫発生学」 木内政宏、和田朋子
---

「環境生命医学」 杉浦史郎、古賀千絵、高瀬駿也「公衆衛生学」 井口亜橋、園真衣、與座唯加、山下泰生、内垣洋祐「認知行動生理学」 宇野澤輝美枝、渡邊統、勝嶋雅之、山本裕史子、佐原佑治、田所祐介、杉元志帆、長谷川理子、芋川雄樹、今度知夏、山下愛博「感染生体防御学」 馮雪「分子病態解析学」 小野香織、佐藤優、宮林佑衣、小林崇平「免疫発生学」 長谷川希望「細胞分子医学」 栗林和華子、厚井悠太「神経科学」 馬敏「感染免疫分野」 伊藤貴瑛「微生物資源分野」 早川真理子「免疫制御学」 柁下紘貴

千葉県職員人事異動

病院局長  
 矢島 鉄也(昭57)  
 (厚生労働省)  
 健康福祉部  
 常泉 吉一(山形大・平6)  
 技監

(健康福祉政策課主幹  
 がんセンター)  
 飯笹 俊彦(昭59・群馬大)  
 診療部長  
 (診療部呼吸器外科部長  
 高野 英行(昭61)  
 診療部長(画像診断部長  
 浜野 公明(平元)  
 診療部長(経営戦略部長  
 高橋 直樹(山形大・平5)  
 主任医長(医長)  
 須藤 研太郎(平10)  
 主任医長(医長)  
 鳴田 博人(平10)  
 主任医長(医長)  
 菅原 武明(平10)  
 主任医長(医長)  
 救急医療センター  
 古口 徳雄(昭60)  
 診療部長  
 (神経系治療科部長  
 松浦 威一郎  
 (愛媛大・平10)  
 主任医長(医長)  
 精神保健福祉センター  
 石川 真紀(平12)  
 主幹(臨床検査課(新採  
 こども病院  
 伊藤 千秋(昭55)  
 診療部長  
 (脳神経外科部長  
 皆川 真規(平元)  
 診療部長(第二内科部長  
 沖本 由理(昭50)  
 診療部血液・腫瘍科部長  
 (第三内科部長)  
 星野 直(小児病態学)  
 感染症科部長

(診療部第一内科部長  
 村山 圭(平18・院)  
 代謝科部長(主任医長)  
 環器病センター  
 石川 隆尉(昭56)  
 診療部長(循環器科部長  
 岡嶋 良知(昭58)  
 診療部長  
 (東金病院診療部長)  
 佐原病院  
 峯 清一郎(昭55)  
 医療局長(診療部長)  
 中堀 進(昭63)  
 診療部長(内科部長)  
 望月 亮祐(平2)  
 外科部長(新採)

千葉県職員より退職

甲原 玄秋  
 (昭50・東京歯大)  
 こども病院歯科部長  
 江口 修(昭61・鹿児島大)  
 こども病院  
 周産期センター産科部長

千葉市職員人事

病院事業管理者  
 齋藤 康(昭43・新潟大)

千葉市職員より退職

守屋秀繁(昭42)  
 病院事業管理者

お く や み

加藤 光(日本大医・昭13)  
 大谷 暢(昭14)  
 正古 良夫(昭17)  
 清水 衛(昭19)  
 森下 博夫(昭19)  
 船越 正美(専20)  
 中島 浩二(昭21)  
 沖 真澄(昭22)  
 小田 卓二(昭23)  
 西堀 乙彦(昭23)  
 野平 哲也(昭24)

中村 瞭(専24)  
 佐藤 恒好(専24)  
 塚田 浩一(専24)  
 針谷 英世(昭25)  
 吉谷 和男(昭25)  
 清水 文雄(専25)  
 大沢 弘和(専26)  
 石塚慶次郎(昭28)  
 松本 龍二(昭28)  
 森山 典男(昭28)  
 蟹澤 成好(昭31)

志村 公男(昭31)  
 西澤 護(昭31)  
 船橋 茂(昭31)  
 加藤 嘉彦(昭32)  
 和田 康敬(昭32)  
 館野 之男(昭34)  
 前田和嘉一(昭34)  
 今野 暁男(昭39)  
 坂田 晃康(昭39)  
 梶本 伸一(福島大医・昭39)  
 神田 健郎(昭43)  
 小澤 毅(昭44)

第二面、徳久剛史教授の学長就任、  
 新るのはな同窓会館完成の記事は、  
 本年最大のニュースとなりました。  
 個人的には、水泳部がらみで、部長  
 であった橋名誉教授の叙勲、主将だ  
 った山口邦夫氏の鹿島労災病院長就  
 任の記事があり、多くの皆さんの就  
 任挨拶を興味深く読ませていただき  
 ました。  
 本紙は109号からA4サイズに  
 なり、集合写真は大きく、出席者名  
 はフルネームで、との方針が定着し、  
 さらにカラーになったので、知って

いる先輩、後輩の名前があったとき、  
 どこに居るか、さがすのが楽しみに  
 なっております。  
 今回は10人余りの皆さんの顔をさ  
 がしましたが、校正用の白黒なので  
 鮮明でなく、カラーになったときの  
 本紙が楽しみです。  
 研修プログラム欄の病院紹介の中  
 に、勤務している同窓生の紹介があ  
 りました。「誰がどこで元気に活躍  
 している」の紹介は当会報の使命で  
 もありますので、是非今後も続けて  
 戴きたい。また、今回初登場の産科

婦人科同窓会学術奨励賞受賞者の紹  
 介も、若手医師の活躍の紹介です。  
 他科からも、これに類する紹介を是  
 非お願いしたいところです。  
 今年も連絡道路の桜を見ることが  
 出来ませんでした。たまには連絡道  
 路の桜並木の写真が当会報に載って  
 もいいかなと思います。  
 同窓会報を更に楽しく読んで頂く  
 ために、ご意見を是非お聞かせくだ  
 さい。

青木 謹(昭36)

千葉医学雑誌90巻1号 2014年2月

総説  
 ロコモティブシンドローム(ロコモ) 岸田俊二 高橋和久  
 症例  
 単孔式腹腔鏡補助下に切除した狭窄型虚血性小腸炎の1例  
 山本悠司 丸山尚嗣 田中 元 松崎弘志 夏目俊之 宮崎彰成 佐藤やよい  
 太田拓実 水藤 広 相川瑞穂 大塚亮太 柳原章寿 清水辰一郎

研究紹介  
 心臓血管外科学教室における臨床、基礎研究 松宮護郎  
 話題  
 ゲッティンゲン大学における私の神経生理学講義(3) 高野光司  
 千葉医学会奨励賞  
 家族性ALSの原因遺伝子FUS/TLSに対する新規治療薬の可能性 藤井早紀子  
 学会  
 第1257回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院  
 消化器・腎臓内科学例会

OAP要旨  
 腰部脊柱管狭窄症に対する高気圧酸素療法の安全性と有効性の検討  
 —前向きオープンラベル症例対照研究—  
 鈴木 都 中村順一 江口 和 重村知徳 井上 玄 折田純久  
 宮城正行 石川哲大 山内かづ代 高橋和久 大鳥精司  
 横須賀 収  
 編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper  
 Original Paper  
 Safety and efficacy of repetitive hyperbaric oxygen therapy in patients with  
 lumbar spinal stenosis - a prospective, open-label case control study  
 Miyako Suzuki, Junichi Nakamura, Yawara Eguchi, Tomonori Shigemura  
 Gen Inoue, Sumihisa Orita, Masayuki Miyagi Tetsuhiro Ishikawa  
 Kazuyo Yamauchi, Kazuhisa Takahashi and Seiji Ohtori

千葉医学雑誌90巻2号 2014年4月

総説  
 慢性C型肝炎に対する新しい治療法  
 神田達郎 宮村達雄 安井 伸 呉 霜  
 中本吾吾 新井誠人 今関文夫 横須賀収  
 病原性大腸菌による感染症—腸管出血性大腸菌を中心に—  
 清水 健 野田公俊

症例  
 自壊し出血を伴った胃脂肪腫に対し、腹腔鏡内視鏡合同手術にて切除しえた1例  
 山本悠司 丸山尚嗣 田中 元 松崎弘志 夏目俊之 宮崎彰成 佐藤やよい  
 太田拓実 相川瑞穂 大塚亮太 柳原章寿 清水辰一郎  
 Capecitabine/oxaliplatin, bevacizumab併用術前  
 化学放射線療法が著効した局所進行下部直腸癌の1例  
 間宮俊太 幸田圭史 岩瀬裕郷 松原久裕

話題  
 3人のトップランナーたち 野田公俊  
 学会  
 第1270回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会

OAP要旨  
 テリパラチド使用は、骨癒合不全因子を伴った腰椎後側方固定の骨癒合を  
 促進する:1例報告  
 乗本将輝 大鳥精司 江口 和 井上 玄 折田純久 山内かづ代 青木保親  
 中村順一 石川哲大 宮城正行 鴨田博人 鈴木 都 久保田 剛 佐久間詳浩  
 及川泰宏 稲毛一秀 西能 健 佐藤 淳 豊根知明 高橋和久  
 野村文夫

編集後記  
 CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper  
 Case Report  
 Teriparatide accelerates lumbar posterolateral fusion in a patient with risk  
 factors for bone fusion: a case report  
 Masaki Norimoto, Seiji Ohtori, Yawara Eguchi, Gen Inoue  
 Sumihisa Orita, Kazuyo Yamauchi, Yasuchika Aoki, Junichi Nakamura  
 Tetsuhiro Ishikawa, Masayuki Miyagi, Hiroto Kamoda, Miyako Suzuki  
 Gou Kubota, Yoshihiro Sakuma, Yasuhiro Oikawa, Kazuhide Inage  
 Takeshi Sainoh, Jun Sato, Tomoaki Toyone and Kazuhisa Takahashi

第91回千葉医学会総会開催のご案内  
 第90回千葉医学会学術大会

編 集 後 記